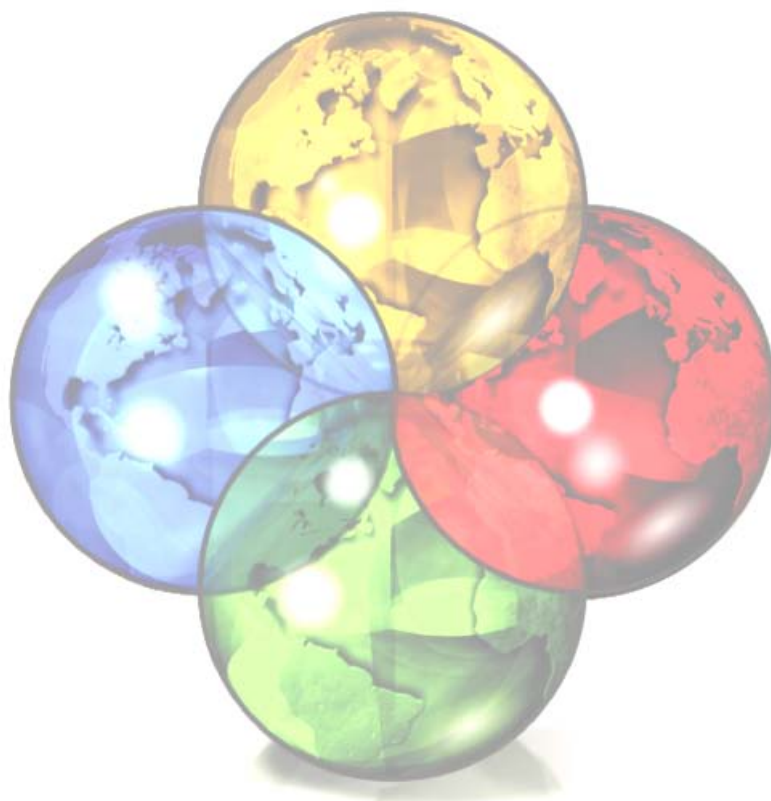


Alchemy CATALYST

クイックスタートガイド



目 次

はじめに	4
Alchemy CATALYST について	4
低コストで、かつ高品質に	4
統合ビジュアルローカライズ環境	4
Alchemy CATALYST の利点	4
CATALYST 9.0 の新機能	4
本資料の概要	5
動作環境	5
事前準備	6
起動時のダイアログの設定	6
翻訳メモリ作成	7
プロジェクトの作成とファイルの挿入	8
手動でのローカライズ方法	11
日本語版のインポート	15
バージョンアップ プロジェクトの開始	18
ファイルの挿入	18
統計情報の表示	18
比較エキスパート	20
レバレッジ エクスパート	23
ローカライズ作業	27
手動ローカライズ	27
簡易 QA 作業	31
手動ローカライズ（続き）	32
バリデート エクスパート	34
用語集の抽出	37
ファイルの抽出	39
お疲れ様でした	40

はじめに

Alchemy CATALYST について

低コストで、かつ高品質に

国際企業にとってソフトウェア アプリケーションのローカライズの質は非常に重要です。今日の競争市場においては、ローカライズコストを削減し、商品化までの時間を短縮すると同時に品質を向上することが要求されています。

統合ビジュアルローカライズ環境

Alchemy CATALYST はこれらの必要条件を最初から満たしています。最新技術の翻訳メモリテクノロジーと直感的に認識できる使いやすいインターフェースにより、ローカライズ担当者は更に効果的に、高品質な翻訳作業を行うことができます。Alchemy CATALYST は統合されたビジュアルローカライズ環境で構築されています。これにより、翻訳者、プロジェクト管理者、およびローカライズエンジニアは協力して高品質なアプリケーションを海外のお客様へお届けすることができます。

Alchemy CATALYST の利点

Alchemy CATALYST は、ローカライズワークフローでの翻訳、エンジニアリング、テスト、ならびにプロジェクト管理などをサポートします。Alchemy CATALYST を使用すると、次を実現できます。

- ローカライズ費用を大幅に削減
ezMatch™ 翻訳メモリテクノロジーを使用することにより、同じ文章を 2 度翻訳する必要はありません。この機能により、効率よく作業を進めることができ、翻訳に掛かる時間と費用を大幅に削減することができます。また、ezMatch™ テクノロジーは、書式情報も再利用するためローカリゼーション エンジニアリングやテスト工程を効率よく行うことができます。翻訳メモリの品質により 50-60% の費用を削減することができますでしょう。
- 高品質な翻訳
Alchemy CATALYST は複雑なプログラムコードやファイルの書式を非表示にし、翻訳作業がしやすい環境を提供します。これにより、翻訳者は翻訳に集中することができ、ソフトウェアアプリケーションの品質向上が実現できます。またこれは、最終的には企業のブランドイメージの向上もつながります。
- 投資還元
Alchemy CATALYST を使用してローカライズワークフローを確立した企業は、翻訳費用の削減、エンジニアリング、テスト工程での費用削減ができます。国際市場へのリリース期間を短縮できることから、投資利益を期待することができます。一般的には、3-6 ヶ月またはそれより早く投資還元を実現することができます。

CATALYST 9.0 の新機能

Alchemy CATALYST 9.0 は、言語変換、操作性、生産性、有用性、国際標準のサポート、またオンライン ヘルプ テクノロジーに対応する機能が強化されました。新機能についての詳細は、弊社 Web ページ <http://www.xlsoft.com/jp/products/catalyst/index.html> をご覧ください。

本資料の概要

本資料では Alchemy CATALYST のワークフローの一例を紹介します。英語のアプリケーションを既に日本語のアプリケーションにローカライズしてあり、英語のアプリケーションがバージョンアップした際に、Alchemy CATALYST を活用するワークフローを紹介します。

1. 事前準備

基本的な操作方法を紹介し、各種設定およびファイルの準備を行います。

2. バージョンアップ プロジェクトの開始

ローカライズを開始するため、Alchemy CATALYST のプロジェクト ファイル (TTK ファイル) を作成します。

3. 比較エキスパート

[比較] エキスパートを使用して、アップデートにより追加された項目などを表示、レポートします。

4. レバレッジ エキスパート

[レバレッジ] エキスパートを使用して既存の用語集をプロジェクト ファイルに適用します。

5. ローカライズ作業

ダイアログ、メニューのローカライズについて説明します。

6. バリデート エキスパート

ローカライズ終了後の QA 段階で [バリデート] エキスパートを使用し、重複したホットキー等のエラーを検出します。

7. 用語集の抽出

ローカライズ資産を文書翻訳で使用するため、用語集を抽出します。

8. ファイルの抽出

アプリケーション ファイルを抽出します。ローカライズされたアプリケーションが複雑な操作なしに生成されます。

動作環境

本資料は次の環境で行います。

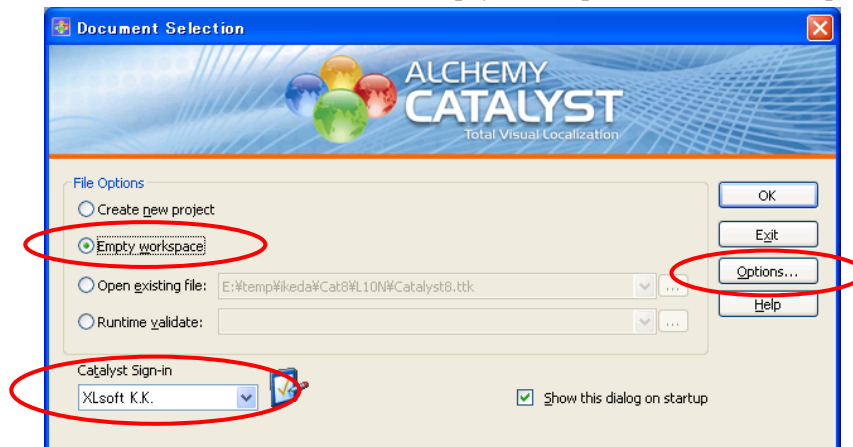
- Windows XP SP3 日本語版
- Alchemy CATALYST 8.0 SP1 Build 8108 Localizer Edition 英語版

事前準備

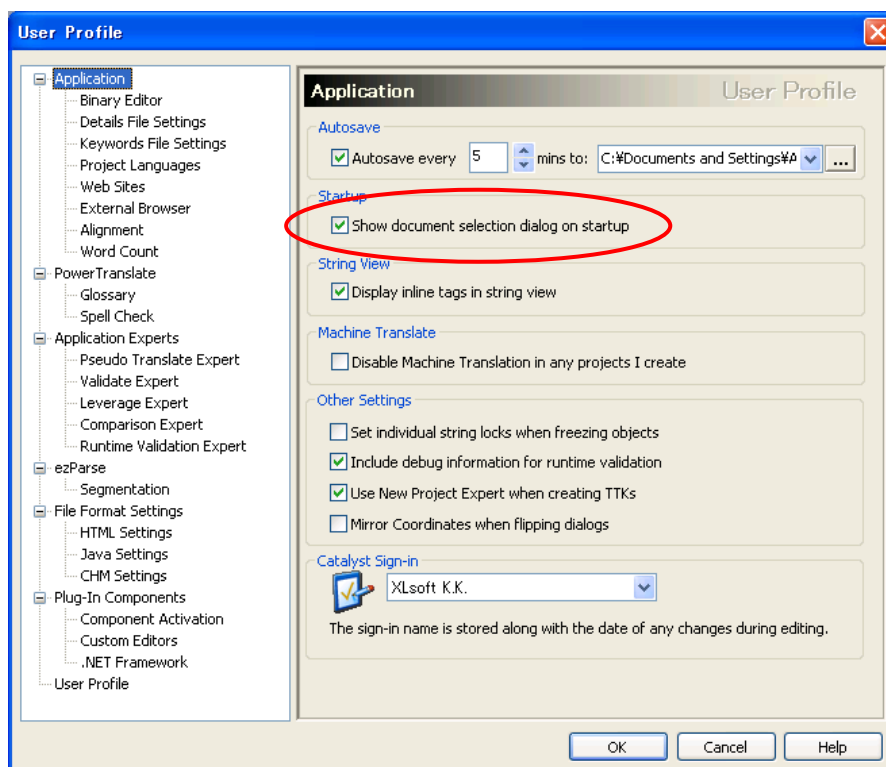
起動時のダイアログの設定

Alchemy CATALYST の起動時に表示されるダイアログを指定します。次の操作を行います。

1. Alchemy CATALYST を起動します。次のダイアログが表示されます。[Catalyst Sign-in] に使用者の名前を入力して、[Empty workspace] を選択し、[Options] をクリックします。

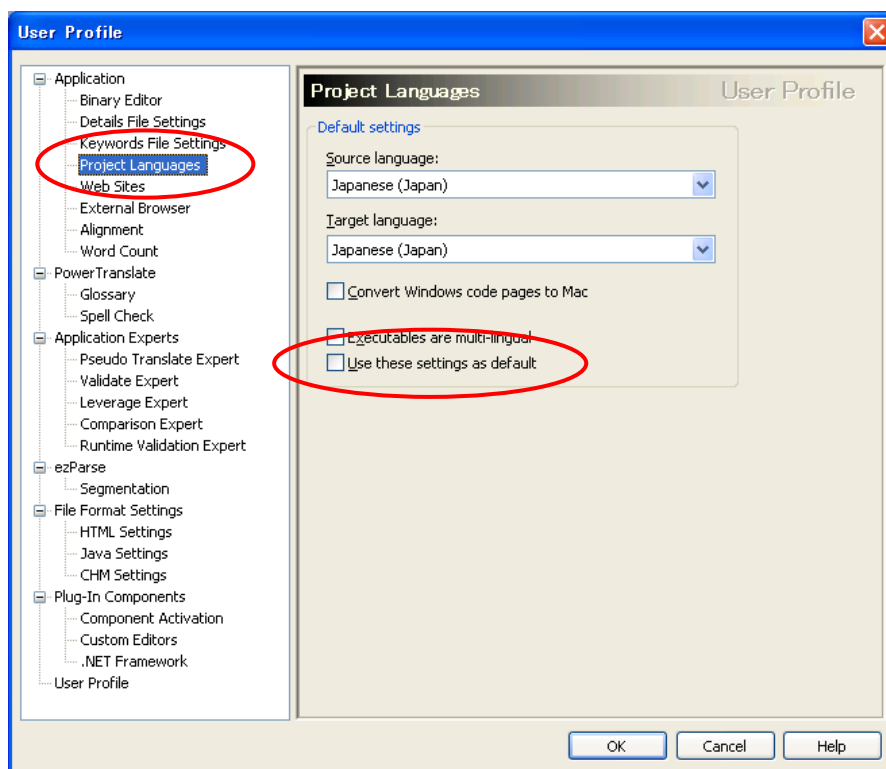


2. 次のダイアログが続けて表示されます。[Show this dialog on startup] のチェックを外します。

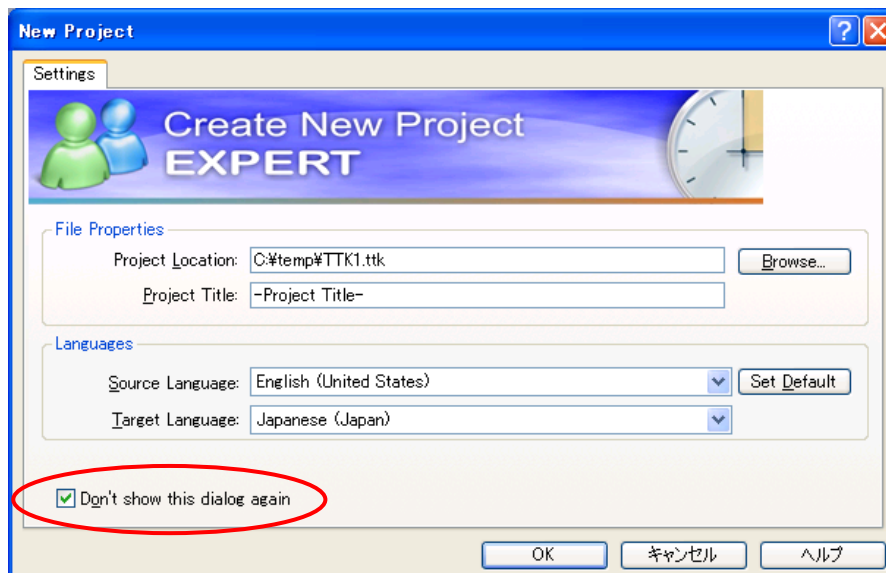


3. [Application] - [Project Languages] をクリックします。

4. [Use these settings as default] のチェックを外します。



5. [OK] をクリックします。次回から起動時に言語設定を行うダイアログが表示されます。
6. Alchemy CATALYST を終了します。
7. Alchemy CATALYST を起動します。[New Project] ダイアログが続けて表示されます。
[Don't show this dialog again] へチェックを付けます。



翻訳メモリ作成

既にローカライズしてある、以前のバージョンの英語版と日本語版から、新バージョンのローカライズで使用するための翻訳メモリを作成します。

Alchemy CATALYST ではこの翻訳メモリを、英語版と日本語版のアプリケーションから直接作成することができます。

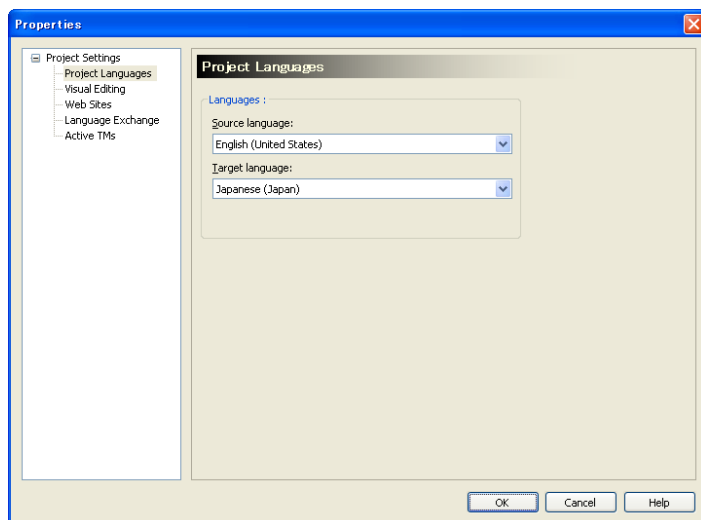
ノート：翻訳メモリとは、原文と訳文の対訳データベースのことです。新しくローカライズする際に、翻訳メモリを検索し同一または類似の原文があれば、データベースに蓄積された訳文を反映することができるため、同じ文章を再度ローカライズする必要がありません。これにより、ローカライズの生産性を大幅に向上することができます。

プロジェクトの作成とファイルの挿入

Alchemy CATALYST でローカライズを開始するにはプロジェクトファイルを作成する必要があります。Alchemy CATALYST のプロジェクトファイルである、TTK ファイルには、ソース ファイルおよびソース バイナリソース バイナリのすべての情報、およびローカライズ情報（ローカライズ文字列、ダイアログの座標、メモ、ローカライズ履歴など）が含まれます。

プロジェクトを開始するには、新規のプロジェクト TTK ファイルを作成し、アプリケーション ファイルを挿入します。次の操作を行います。

8. Alchemy CATALYST を起動します。[New Project] ダイアログが続けて表示されます。[Source Language] のドロップダウンから [English (United States)]、[Target Language] のドロップダウンから [Japanese (Japan)] を選択して、[OK] をクリックします。

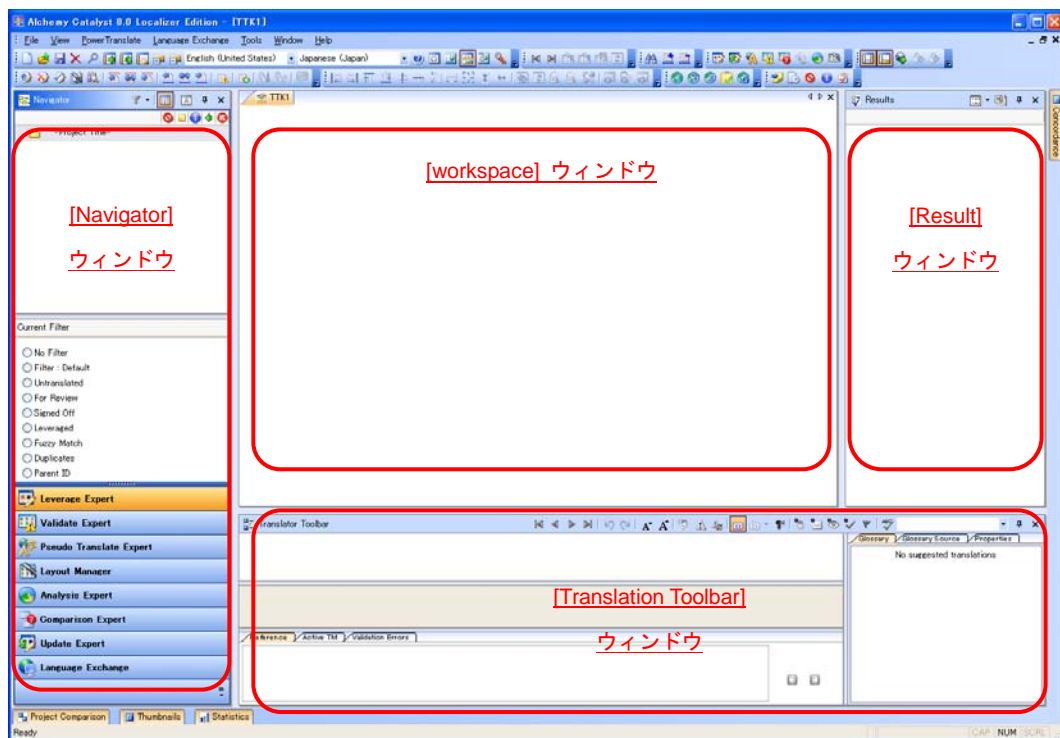


ノート：言語の設定に English, English (United States), English (Canadian) と同じ言語で複数の設定がある場合があります。OS の地域設定または Visual Studio などの開発ツールの言語設定で、アプリケーションの文字コードが指定される場合はその設定に併せて変更する必要があります。

例：Chinese (China) は簡体字中国語、Chinese (Hong Kong) は繁体字中国語、など。

Japanese と Japanese (Japan) には文字コードの違いはありません。

9. Alchemy CATALYST が起動します。



ノート：画面左側から、

プロジェクトの情報を表示する、[Navigator] ウィンドウ


ローカライズ情報、各種作業情報を表示する、[workspace] ウィンドウ

[To Do] リストやエキスパート機能の実行結果を表示する、[Result] ウィンドウ

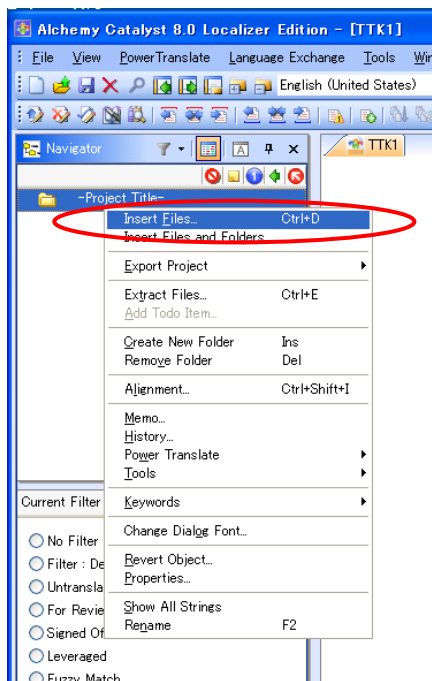
画面中央下部が、

ローカライズ作業、用語集およびメモの参照などを行う、[Translation Toolbar] ウィンドウ

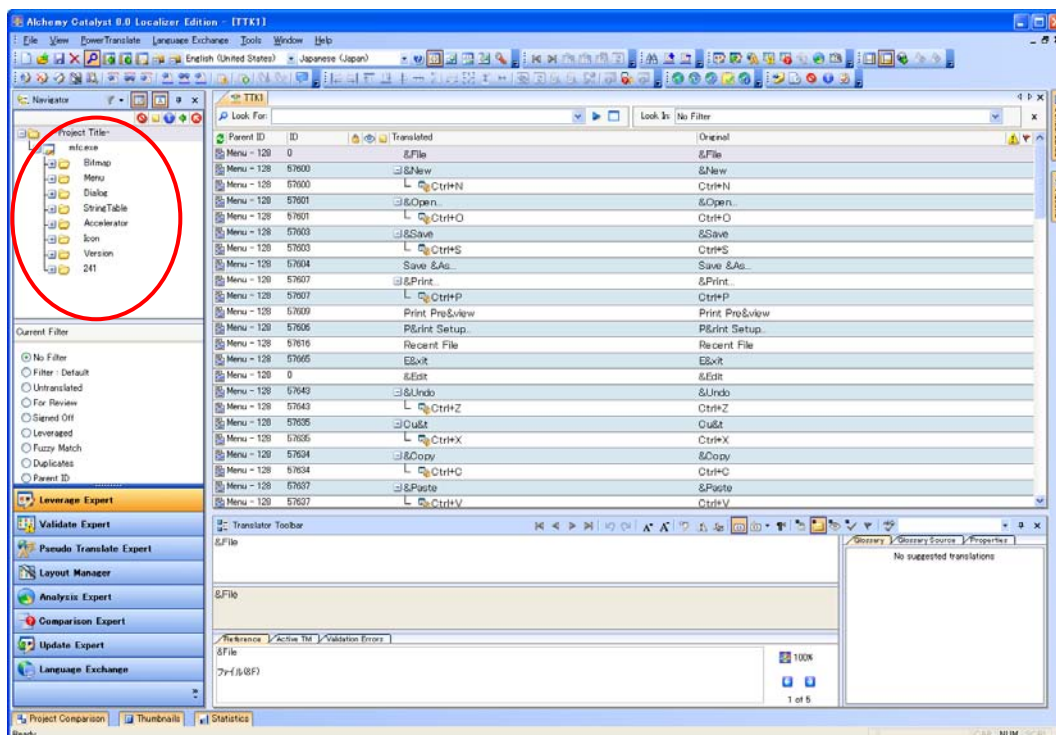
と呼びます。


これらのウィンドウは、画鋲アイコン  をクリックすることで、ドッキングまたは非ドッキングを選択できます。[Result] ウィンドウを非ドッキング状態にすると、[workspace] が広く使用できて便利です。

10. [-Project Title-] のフォルダを右クリックして、[Insert Files..] を選択します。[Insert Files] ダイアログ ボックスが表示されます。



11. eng_mfc_100 ディレクトリから mfc.exe を選択します。mfc.exe が表示されない場合は、[ファイルの種類] が [Resource Files (*.exe, *.dll, *.ocx, *.flt)] が選択されていることを確認してください。選択後、[OK] ボタンをクリックして、プロジェクト TTK ファイルにファイルを挿入します。



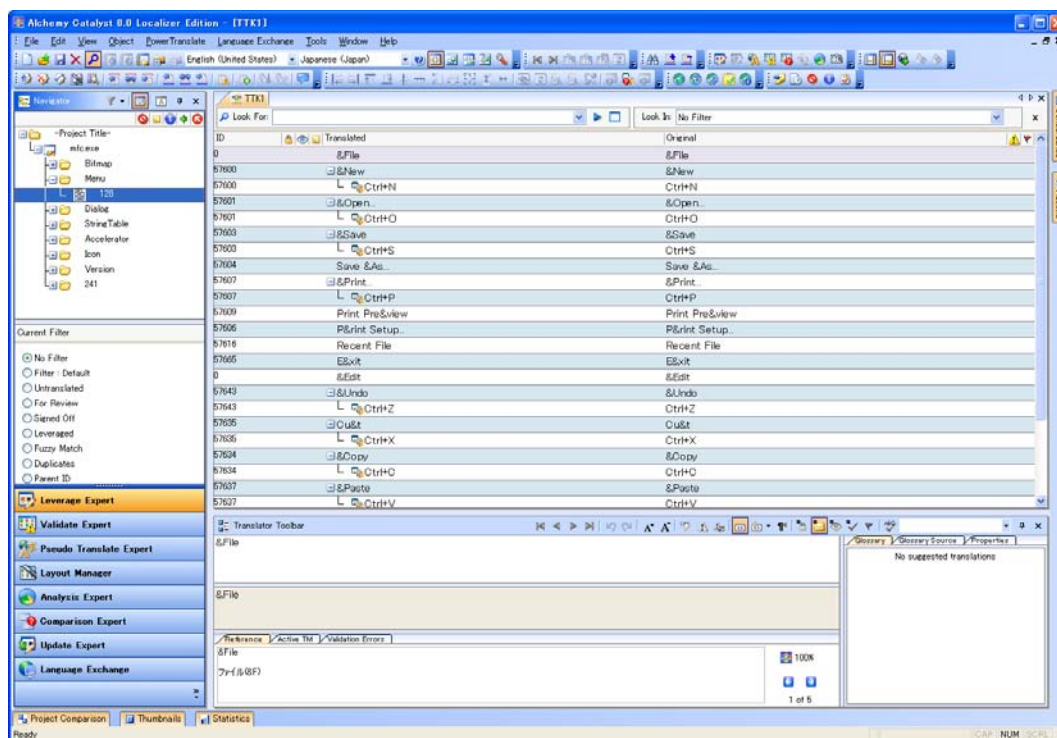
ノート： [Navigator] ウィンドウ上部にある [Show All Strings] ボタン  がオンにすると、アプリケーションに含まれるすべてのセグメントが [workspace] ウィンドウに表示されます。本演習では、このボタンをオフにしてください。

12. メニューから [File] - [Save as] を選択します。プロジェクト TTK ファイルを old.ttk として保存します。


手動でのローカライズ方法

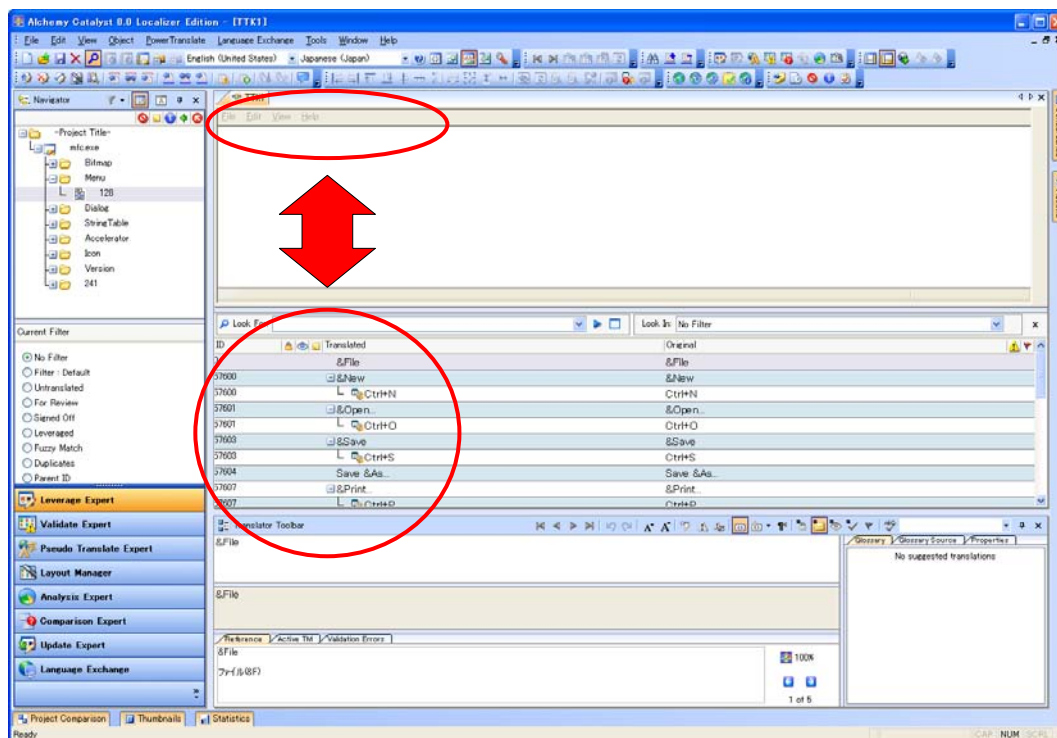
基本操作を紹介します。ここでは手動でセグメント（翻訳の 1 単位）をいくつかローカライズします。

1. 挿入した mfc.exe の [Menu] - [128] をクリックします。[workspace] ウィンドウで、メニュー 128 に含まれるセグメント一覧が表示されます。

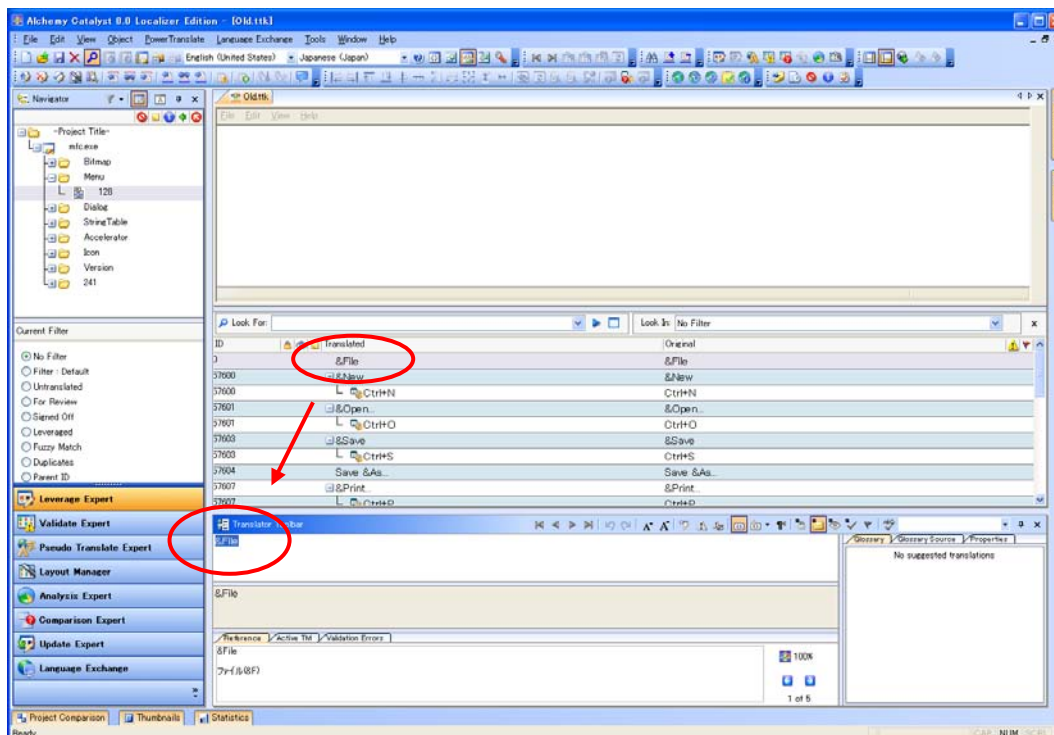


2. [workspace] ウィンドウの表示を変更して、ローカライズしやすい環境に変更します。

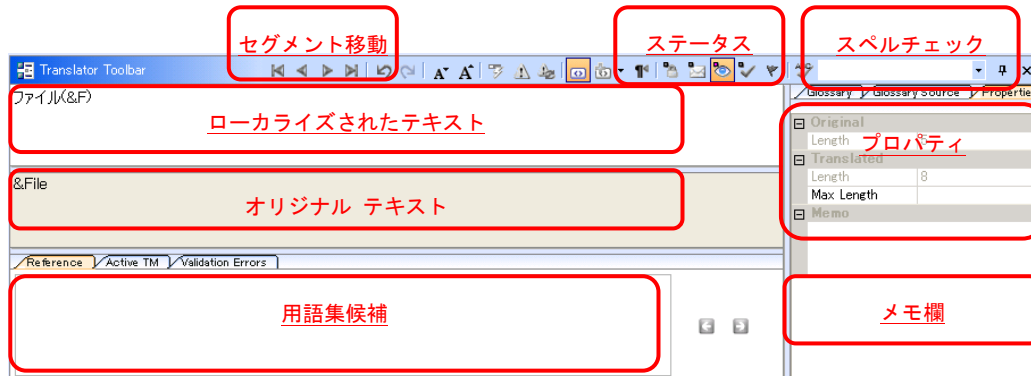
ツールバーの右上に 4 つのボタンがあり () 左から文字列のみを表示する [String View]、WYSIWYG 環境を提供する [Visual View]、リソースと文字列の両方を表示する [Horizontal Split View]、[Vertical Split View] です。本演習では [Horizontal Split View] を選択します。リソースを見ながら文字列をローカライズできます。



3. [workspace] ウィンドウの ID 0、「&File」をダブルクリックします。画面下 [Translation Toolbar] のテキストがハイライトされ、ローカライズ可能な状態になります。

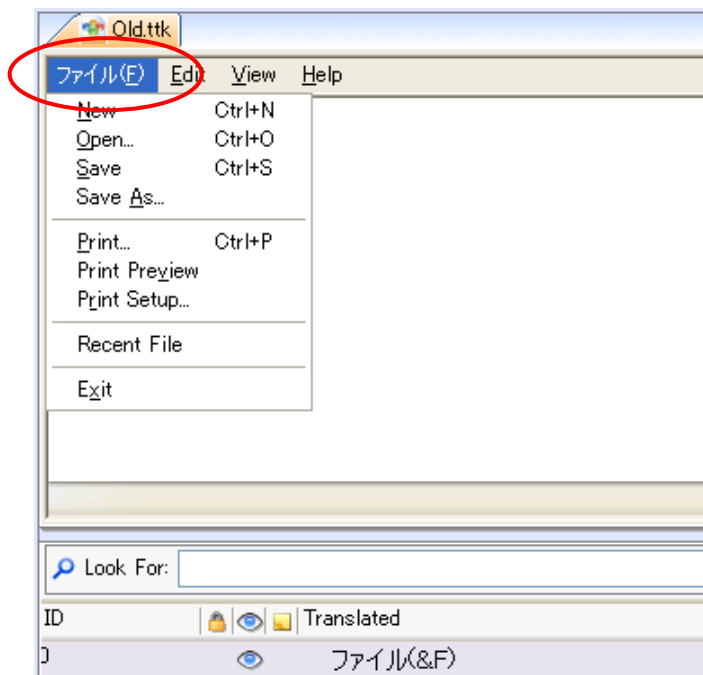


ノート : [Translation Toolbar] には、以下の情報が表示されます。

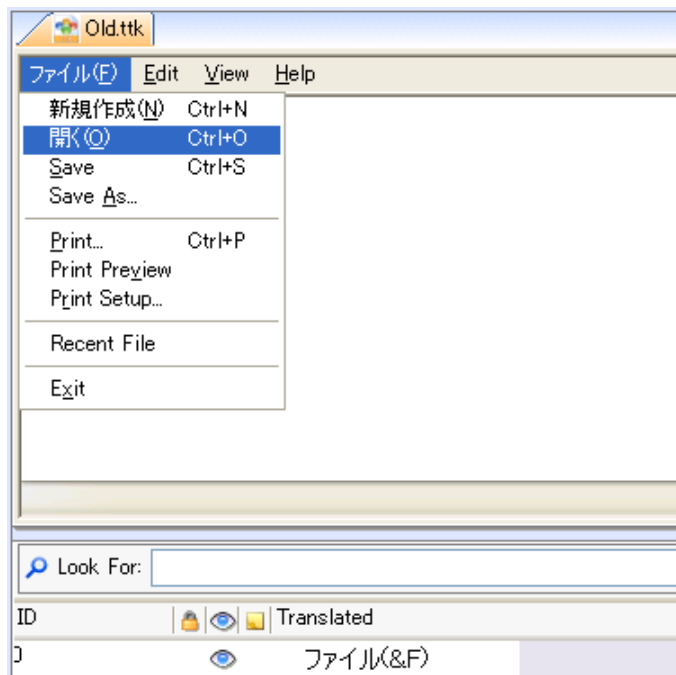


4. 「&File」を「ファイル(&F)」に修正し、Enter キーを押して修正を反映します。自動的に次のセグメントにフォーカスが移ります。

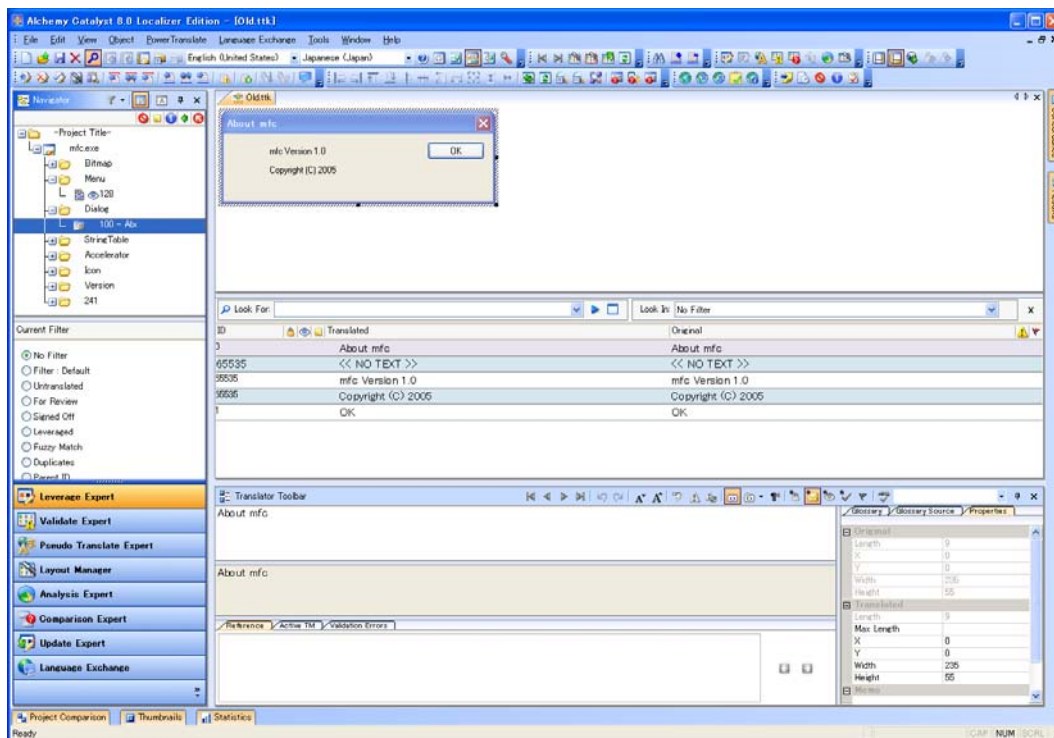
5. 翻訳結果をすぐに確認できます。[workspace] ウィンドウの上部のメニューをクリックします。



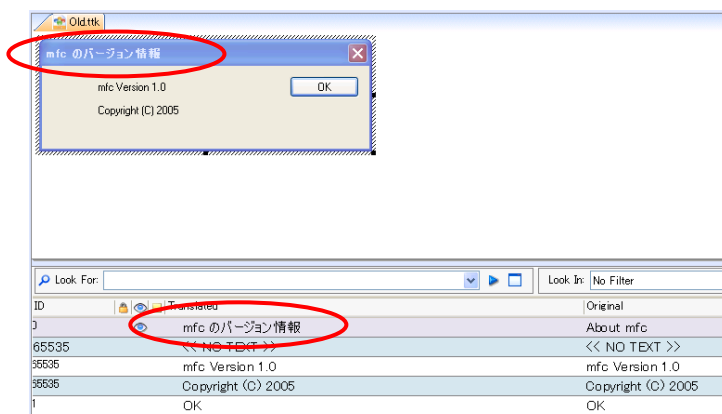
6. 続いて「&New」を「新規作成(&N)」、「&Open...」を「開く(&O)...」と翻訳します。



- 次にダイアログのローカライズを行います。[Dialog] - [100 - About mfc] をクリックします。



- [workspace] ウィンドウ下部の String View で ID 0、「About mfc」を「mfc のバージョン情報」にローカライズします。[workspace] ウィンドウ上部の WYSIWYG View に結果が反映されることを確認してください。

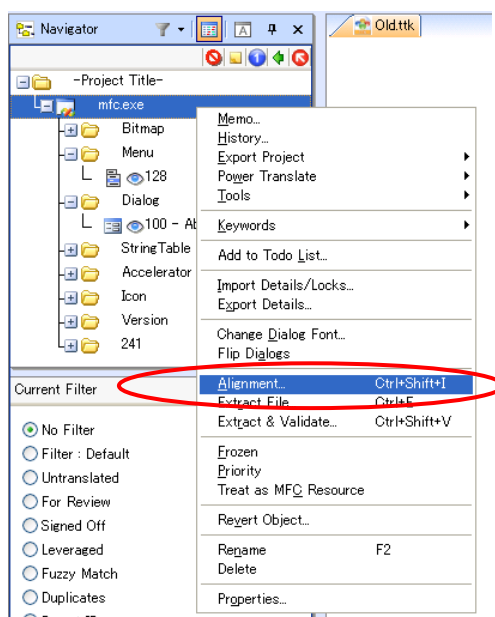


- 新規ローカライズの際など、手動でローカライズする場合は、そのままローカライズを続けますが、本資料では既に翻訳済みのファイルのインポートを行います。

日本語版のインポート

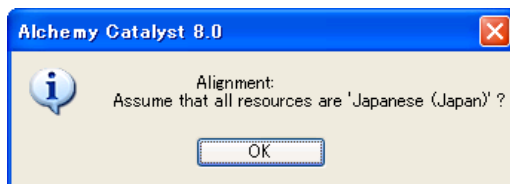
以前の日本語バージョンをターゲットとしてインポートし、以前の英語版と日本語版の対訳データベースである翻訳メモリを作成します。exe ファイルなどのバイナリ ファイルおよび rc ファイルなどのリソース スクリプト ファイルリソース スクリプト ファイルをターゲットとしてインポートする場合は、ソースの ID を確認し、ターゲットの同じ ID のセグメントを自動的に割り当てます。

1. 挿入した mfc.exe を右クリックして、[Alignment...] を選択します。

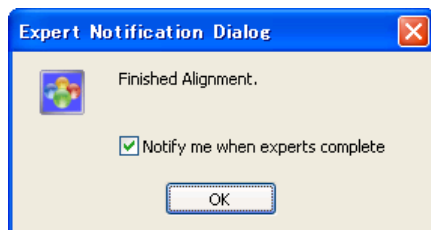



2. [Select Translated File] ダイアログで、jpn_mfc_100 ディレクトリの mfc.exe を選択します。

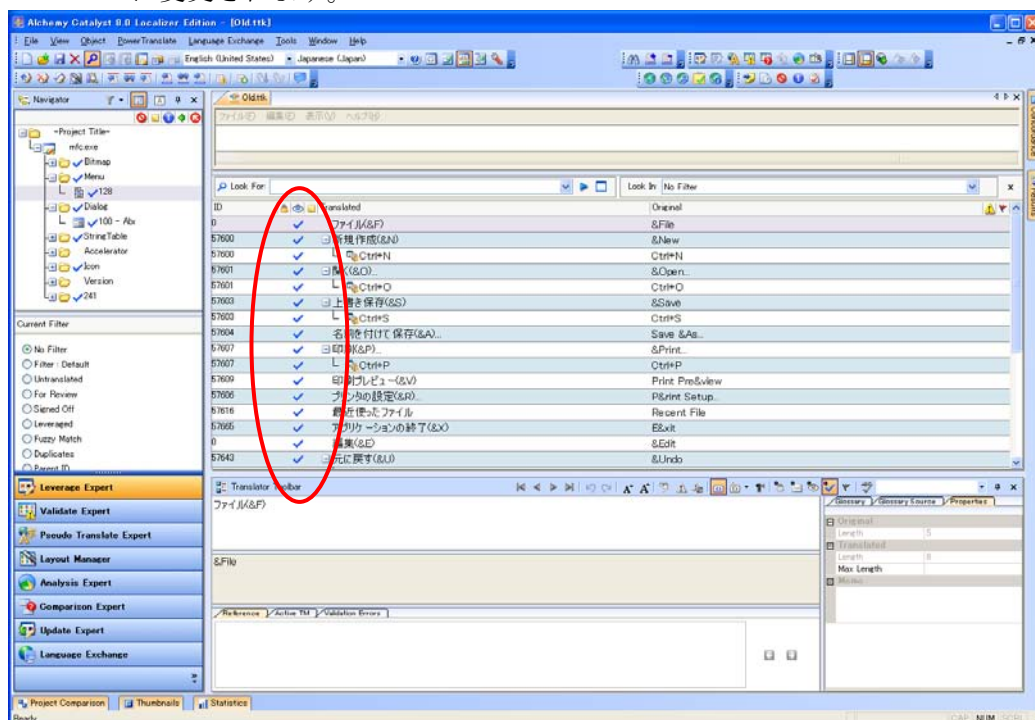
ノート：リソースの言語を確認するダイアログが表示された場合は [OK] をクリックします。



3. ローカライズのインポートが終了し、次のダイアログが表示されます。[OK] をクリックしてダイアログを閉じます。



- ターゲットのすべてのセグメントに語句がインポートされ、[signed off] ステータス アイコン  に変更されます。

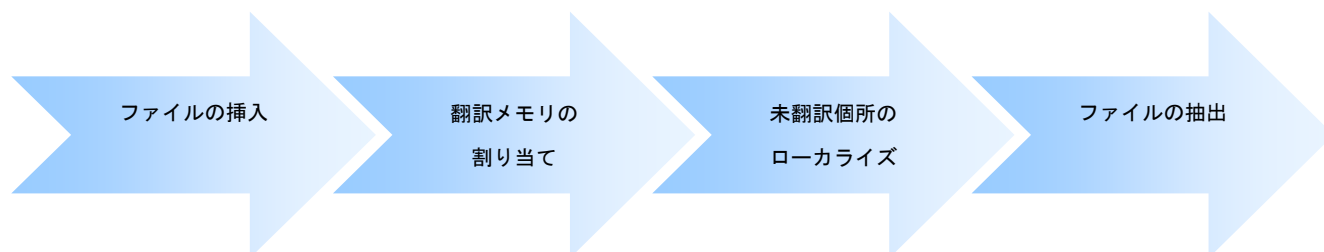


- メニューから [File] - [Save] を選択して、プロジェクト TTK ファイルを保存します。

以上で、英語と日本語の対訳データベースとなる、翻訳メモリが作成されました。メニューから [File] - [Close Project] を選択して、プロジェクトを閉じます。

バージョンアップ プロジェクトの開始

バージョンアップ時のワークフローについて説明します。事前準備の章と同様に、新規プロジェクトを作成し、バージョンアップした英語版アプリケーションを挿入します。その後、翻訳メモリの割り当て、未翻訳個所のローカライズ、ファイルの抽出を行います。



ファイルの挿入

1. Alchemy CATALYST を起動します。言語選択のダイアログが続けて表示されます。
[Source language] のドロップダウンから [English (United States)]、[Target language] のドロップダウンから [Japanese (Japan)] を選択して、[OK] をクリックします。
2. Alchemy CATALYST が起動します。
3. [-Project Title-] のフォルダを右クリックして、[Insert Files...] を選択します。[Insert Files] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. eng_mfc_200 ディレクトリから mfc.exe を選択します。[OK] ボタンをクリックして、プロジェクト TTK ファイルにファイルを挿入します。
5. メニューから [File] - [Save As...] を選択します。プロジェクト TTK ファイルを new.ttk として保存します。


統計情報の表示

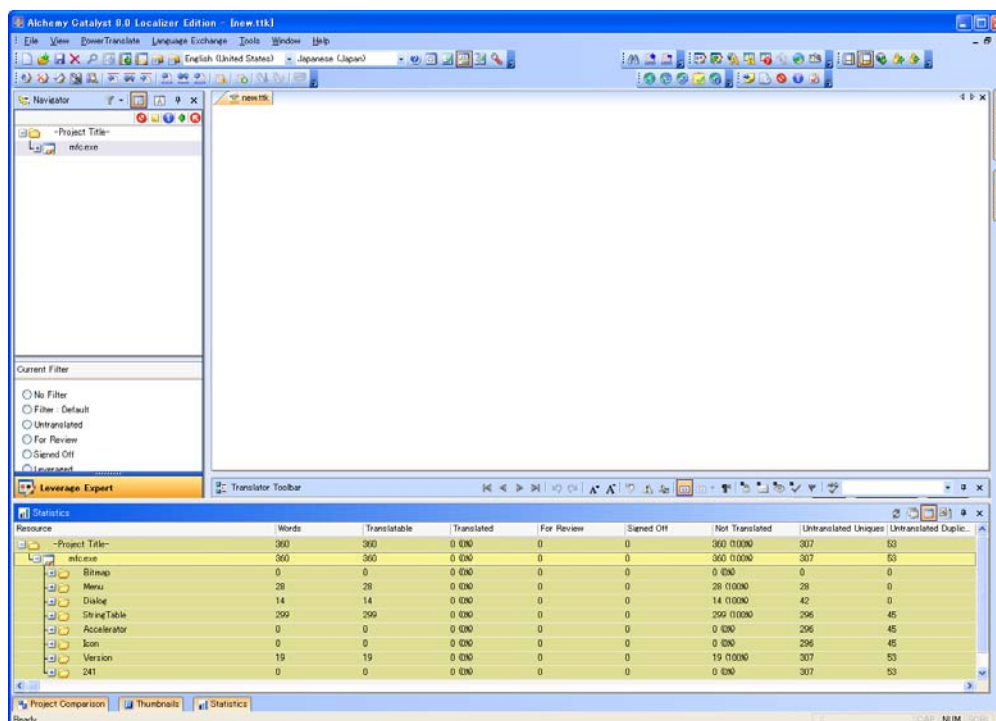
Alchemy CATALYST では、挿入したアプリケーション ファイルに含まれるセグメント数、ローカライズ済みのセグメント数などを随時表示、確認することができます。

1. [-Project Title-] のフォルダを選択します。
 2. [Navigator] ウィンドウ下部の [Statistics View] タブ
- をクリックします。



バージョンアップ プロジェクトの開始

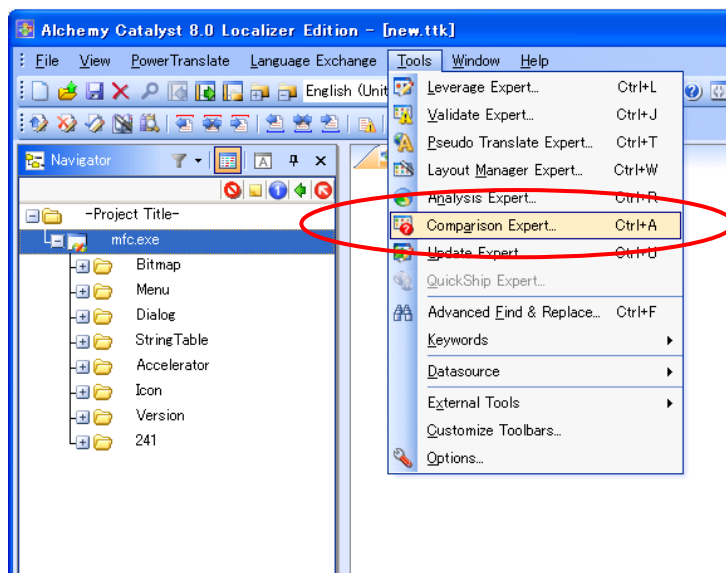
3. プロジェクトの簡易レポートが表示されます。プロジェクトの進捗状況の確認などに使用できます。[リフレッシュ] ボタン  をクリックすると現在の状況に更新されます。



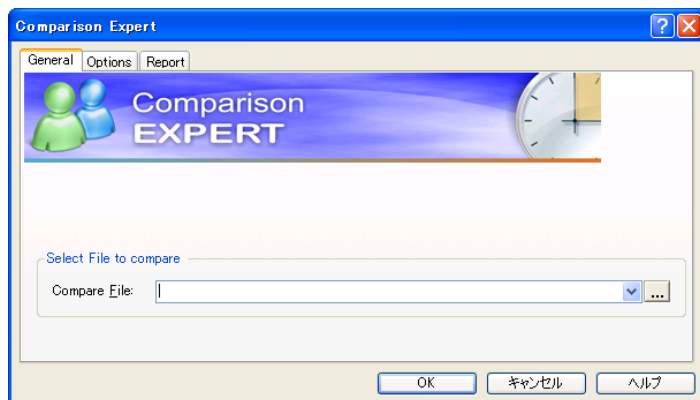
比較エキスパート

比較エキスパートを使用して、バージョンアップの際に追加、修正された項目を検出、レポートできます。次の操作を行います。

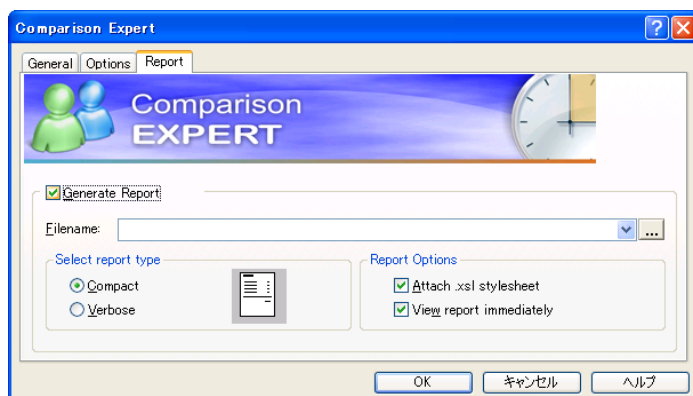
1. 挿入した **mfc.exe** をクリックして、メニューから **[Tools] - [Comparison Expert...]** を選択します。



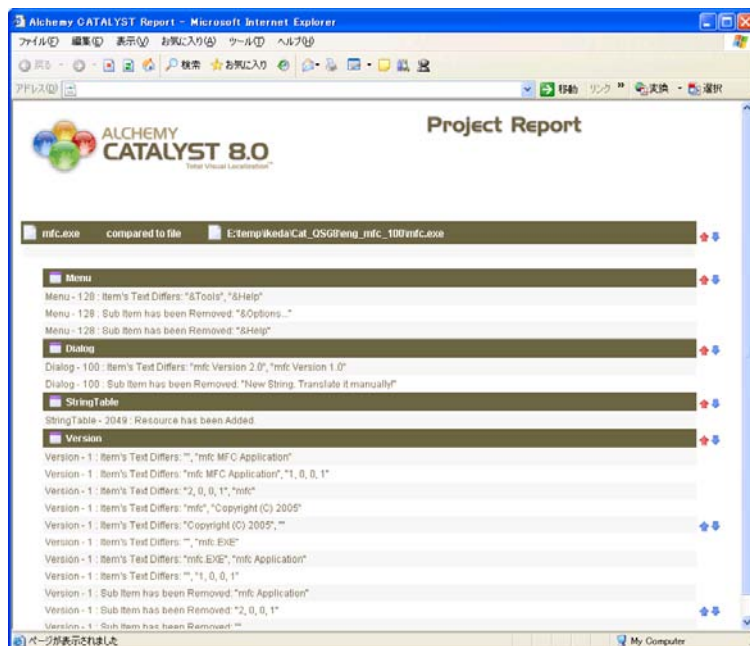
2. **[Comparison Expert]** ダイアログが表示されます。**[Compare File]** に **eng_mfc_100** の **mfc.exe** を指定します。



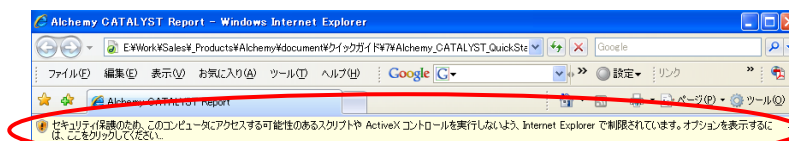
3. **[Report]** タブをクリックします。**[Generate Report]** にチェックを入れ、**[Filename]** にレポートのファイル名を任意で指定します。**[OK]** をクリックして、比較を開始します。



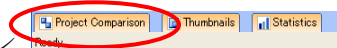
4. [Expert Notification Dialog] ダイアログで [OK] をクリックすると、XML レポートが表示されます。



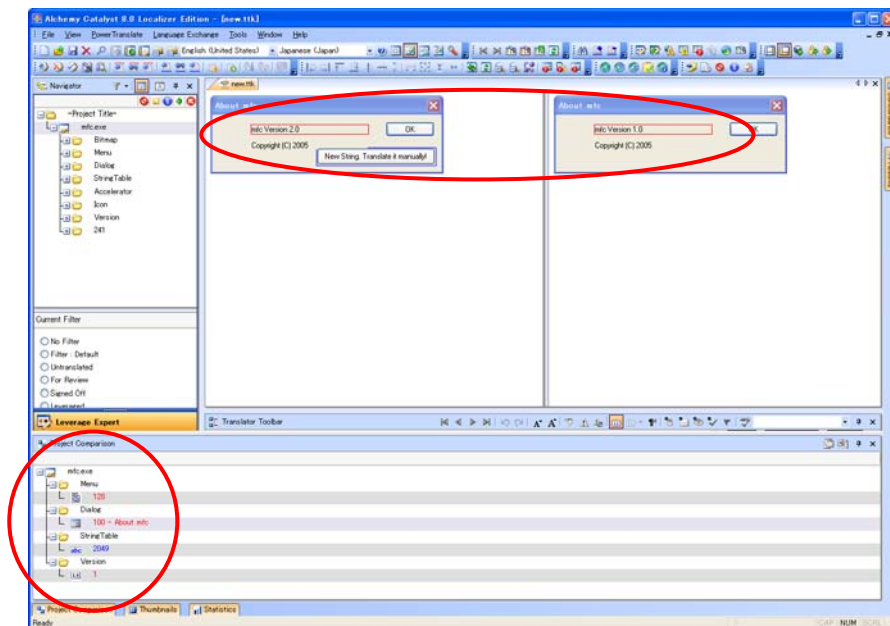
ノート：デフォルトブラウザで Internet Explorer を使用していて、アクティブ コンテンツを許可していない場合は、許可してください。XML レポートが自動で表示されない場合は、生成された XML ファイルをダブルクリックしてください。



5. [Navigator] ウィンドウ上部の [Project Comparison] ボタンをクリックします。



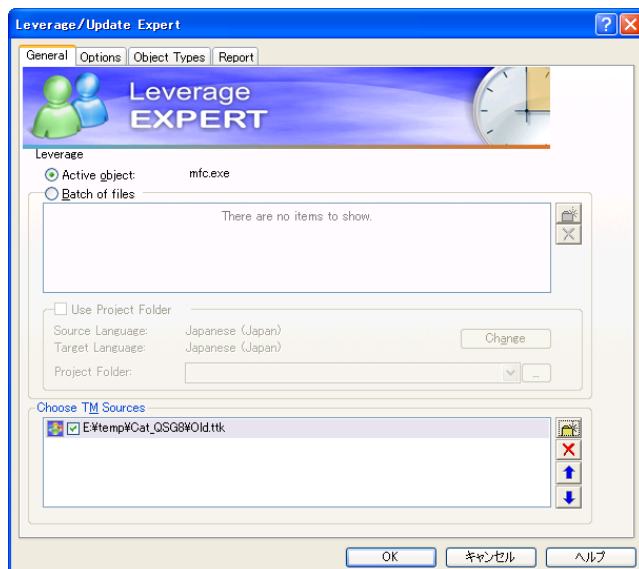
6. 相違のある部分は赤で、追加のある部分は青で変更点が表示されます。変更点のある項目をクリックすると、該当箇所が表示されます。



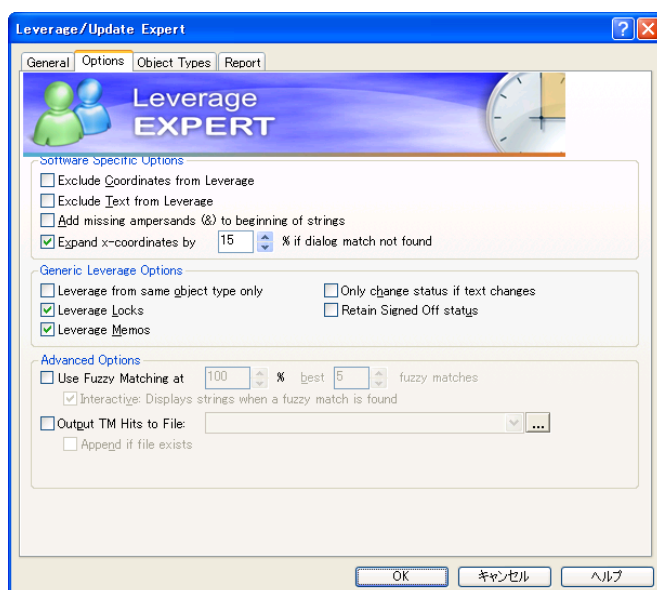
レバレッジ エキスパート

前バージョンの用語集などの既存のローカライズ資産が存在する場合、作成したプロジェクトに反映できれば作業効率を大きく向上させることができます。レバレッジ エキスパートは TTK ファイル、用語集ファイル、TRADOS から行うことができます。

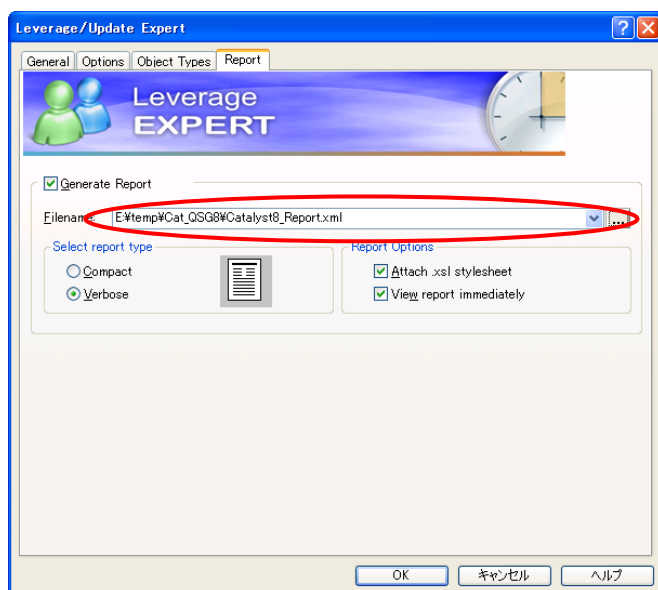
1. [Navigator] ウィンドウで、mfc.exe をクリックし、メニューから [Tools] - [Leverage Expert] を選択します。
2. 次のダイアログが表示されます。[Active object] を選択し、[Choose TM Sources] に「翻訳メモリ作成」の章で作成した old.ttk を指定します。



3. [Options] タブをクリックし、[Add missing ampersands (&) to beginning of strings] のチェックを外し、次の画面と同じオプションが選択されているかを確認してください。



4. [Report] タブをクリックし、[Generate Report] にチェックを入れ、レポートのファイル名を指定します。

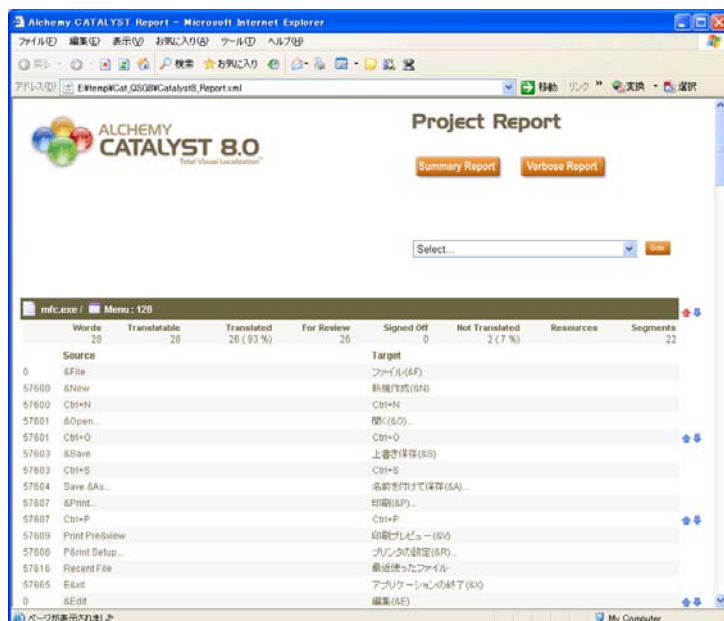


5. [OK] をクリックしてレバレッジを開始します。

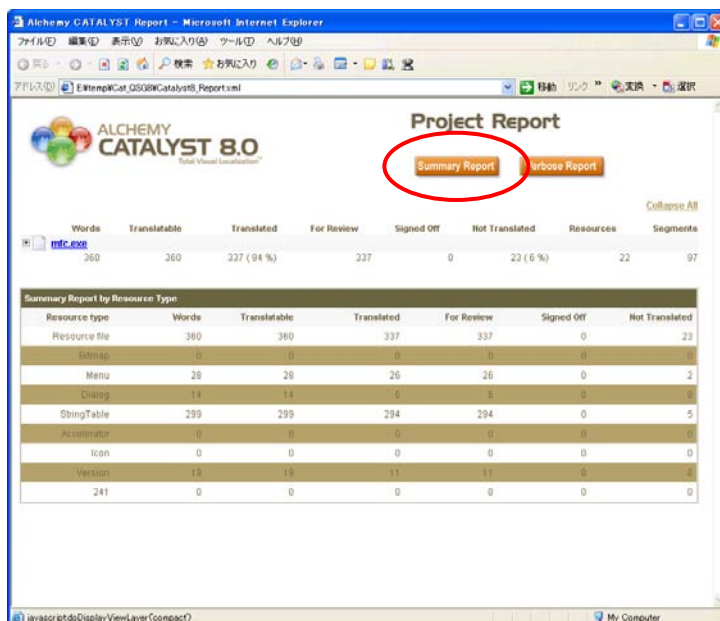
ノート：次のダイアログが表示される場合があります。このダイアログは、XML ファイル用のスタイルシートを上書きコピーするかどうかの確認メッセージです。[はい] を選択して、スタイルシートを上書きコピーします。



6. レバレッジが終了して、XML レポートが表示されます。ローカライズされた内容が表示されます。




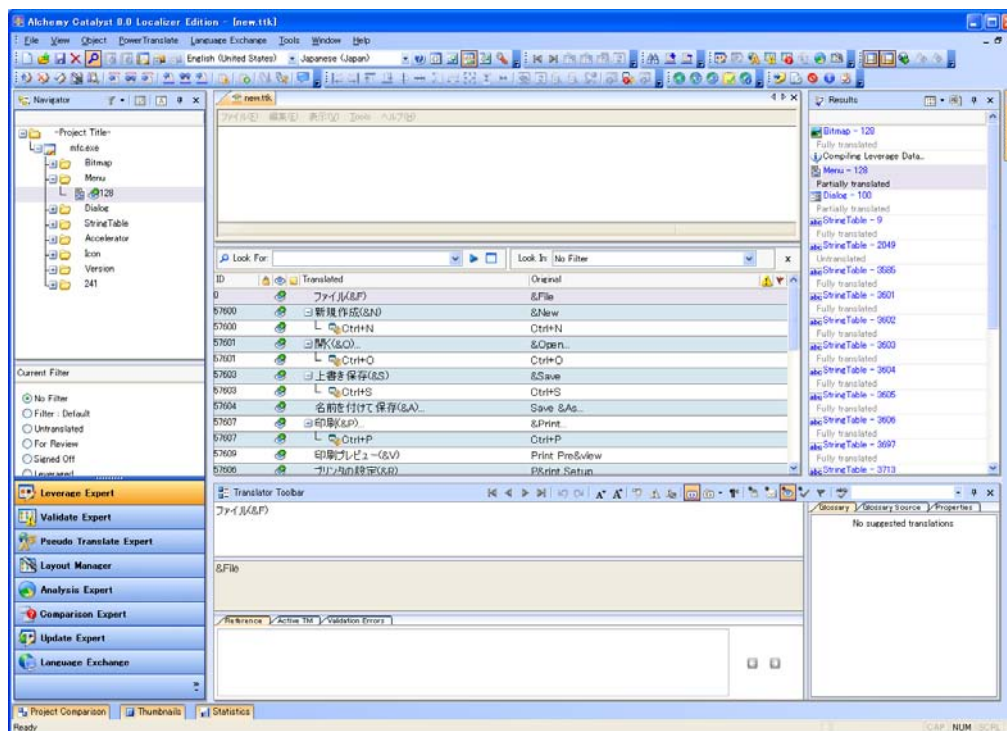
7. [Summary Report] ボタンをクリックして、統計情報を表示します。レバレッジ エキスパートの結果、6%、23 ワードを追加でローカライズする必要があることが分かります。




8. [Results] ウィンドウには、レバレッジの結果が表示されます。[Fully translated]、[Partially translated] などのローカライズ状況が表示されます。各項目をダブルクリックすると、該当個所にジャンプします。[Menu - 128] をクリックしてください。



9. レバレッジされたセグメントは、レバレッジアイコン  で表示されます。レバレッジされなかった、「&Tools」、「&Options」をローカライズします。「Menu」、「String」などの主項目は、サブ項目すべてに終了マークを付けた際に終了マークが表示されます。




ノート：レバレッジのオプションで、[Retain Signed-off status] にチェックが入っている場合、レバレッジ元のセグメントが Signed-off されていれば、レバレッジされた個所には Signed-off アイコン  が表示されます。

ローカライズ作業

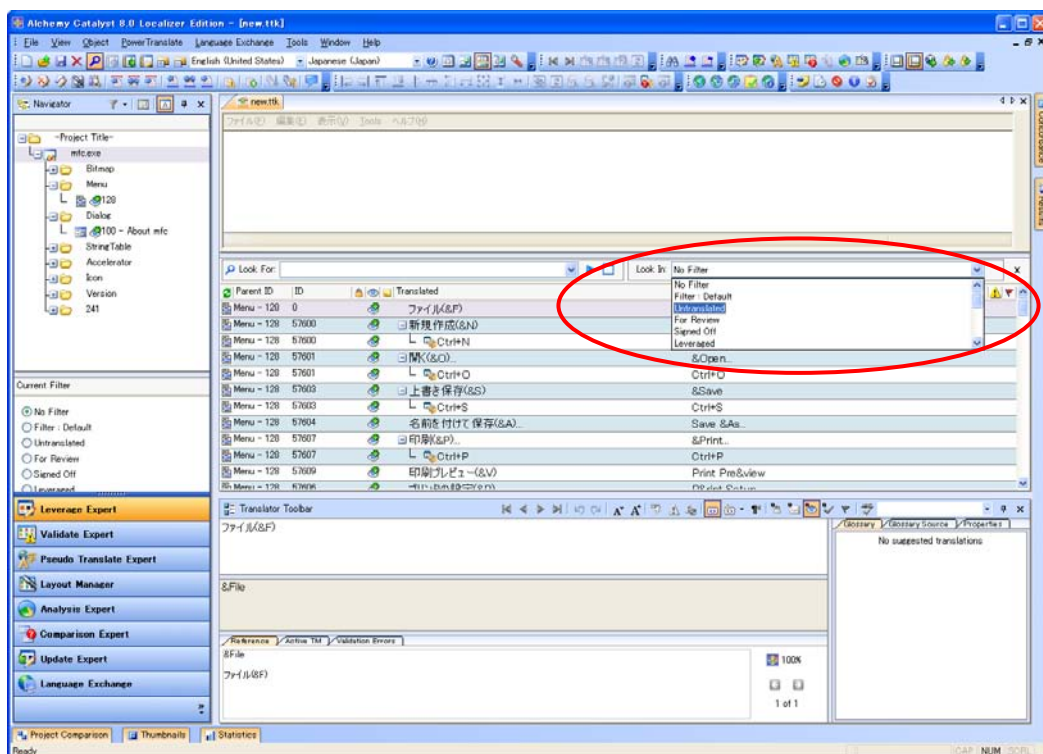
このセクションでは Alchemy CATALYST でのローカライズ方法について説明します。

Alchemy CATALYST では、セグメントを選択すると [Translator Toolbar] ウィンドウにテキストが表示されます。このウィンドウの [Translated Text] に訳を入力します。ダイアログで作業している場合は、コントロール等のサイズおよび配置を調整する必要があります。

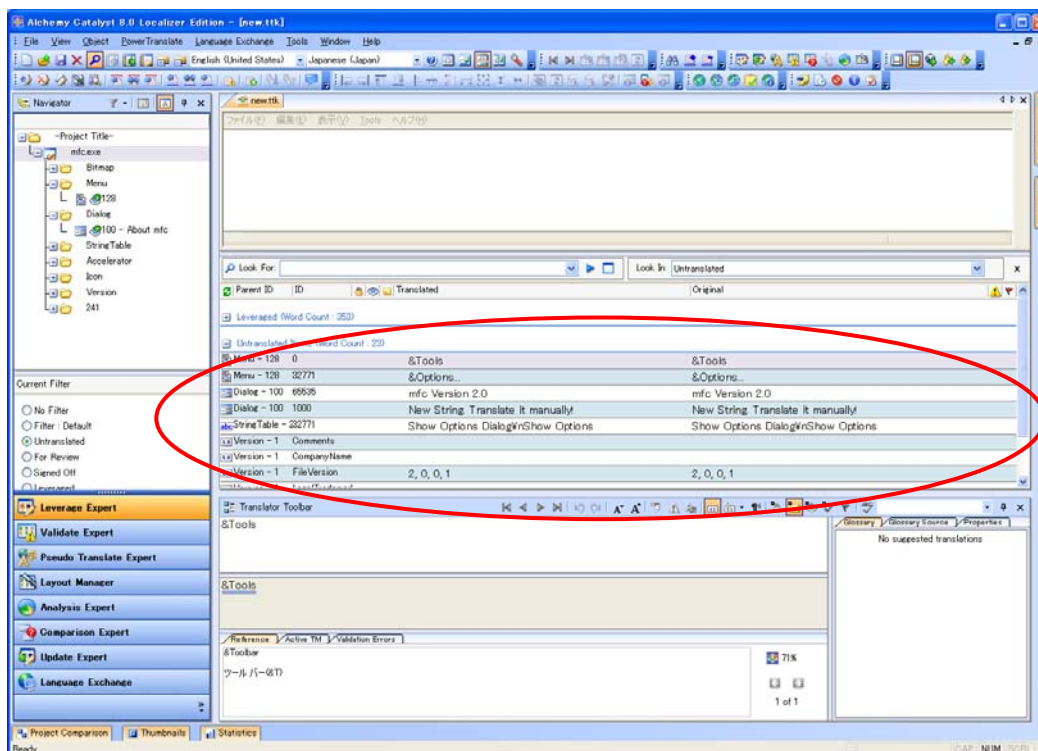
手動ローカライズ


この章では [Navigator] ウィンドウ上部の [Show All Strings] ボタン  をオンにしたまま作業を行います。

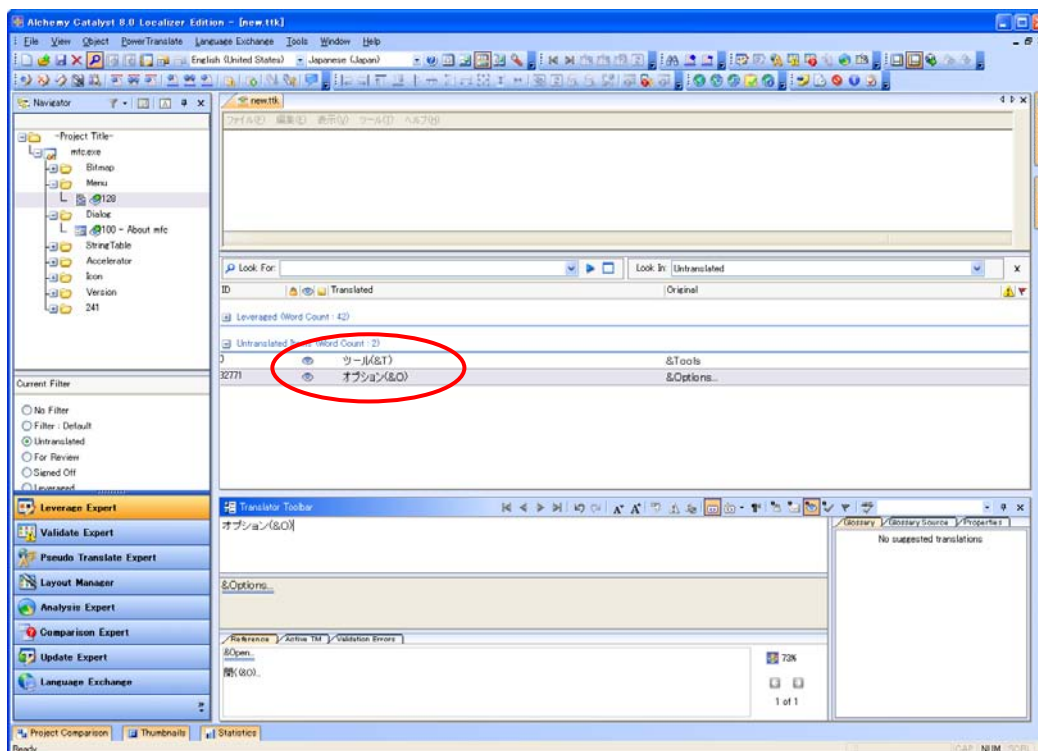
1. mfc.exe をクリックします。[workspace] ウィンドウの上部の [Look In] のドロップダウン リストから [Untranslated] を選択します。



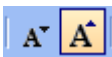
2. [Untranslated Items] の項目に未翻訳のセグメントが一覧表示されます。この部分を手動でローカライズしていきます。



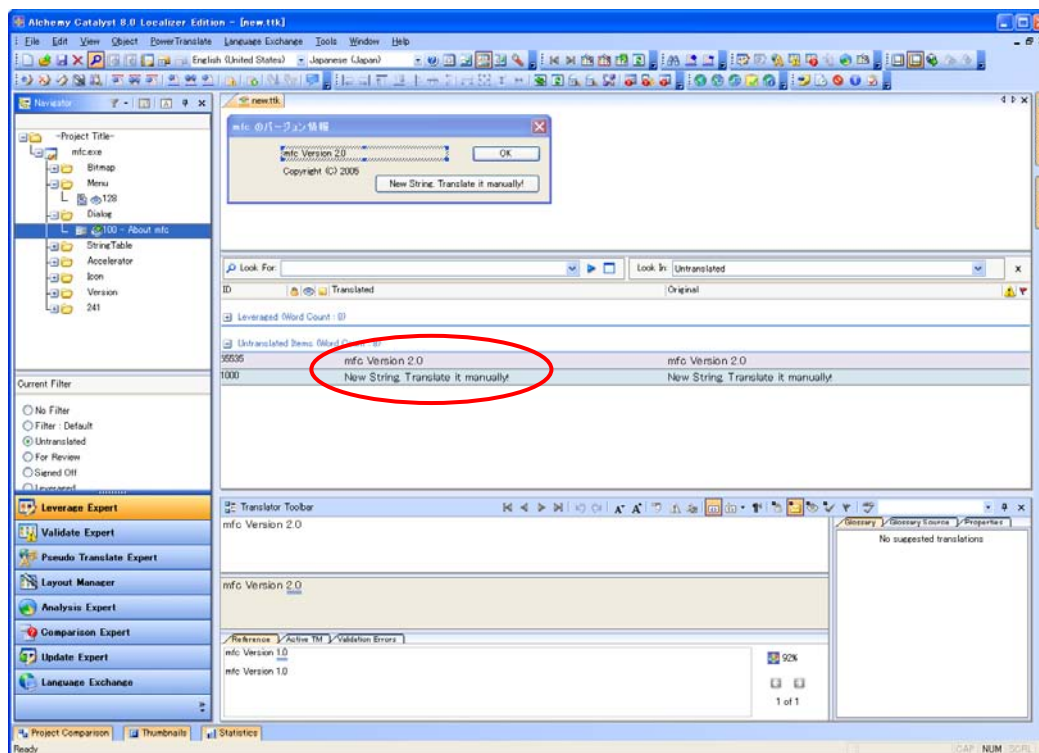
3. [Menu] - [128] をクリックします。[Untranslated Items] として表示される「&Tools」と「&Options...」を「ツール(&T)」と「オプション(&O)...」にローカライズします。手動でローカライズした個所には、[For Review] アイコン  が表示されます。

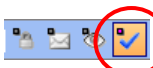



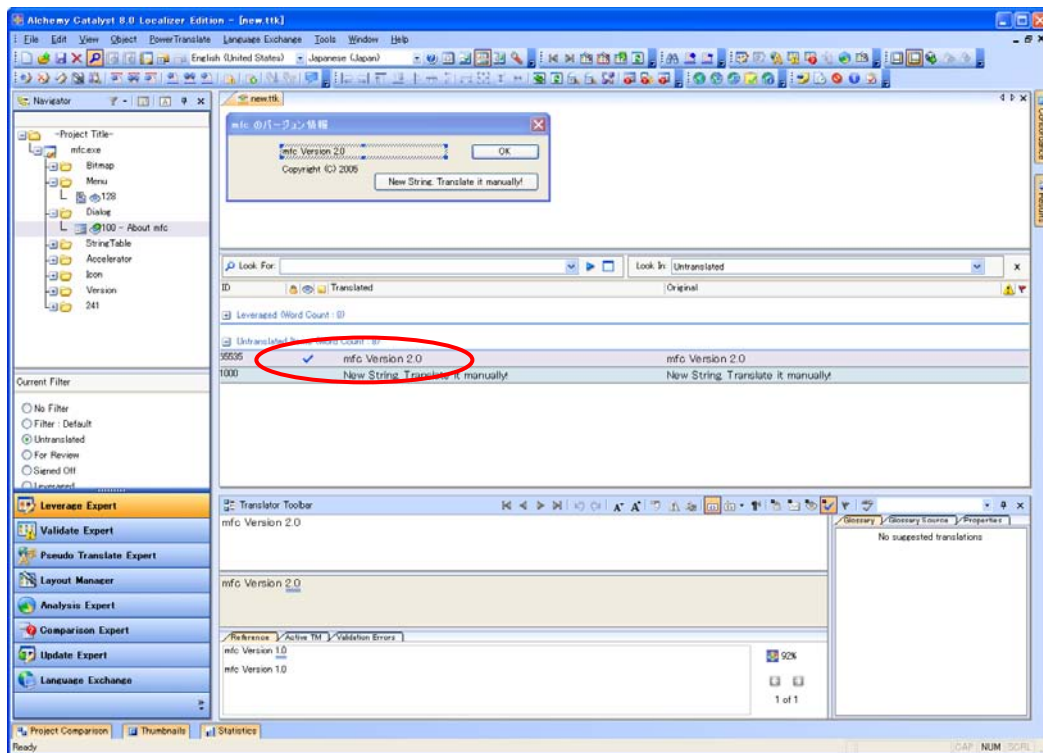
ノート：ワークスペースの文字列が小さい、大きい場合は、[Translator Toolbar] の [Increase/Decrease Font

Size] ボタン  で調整できます。

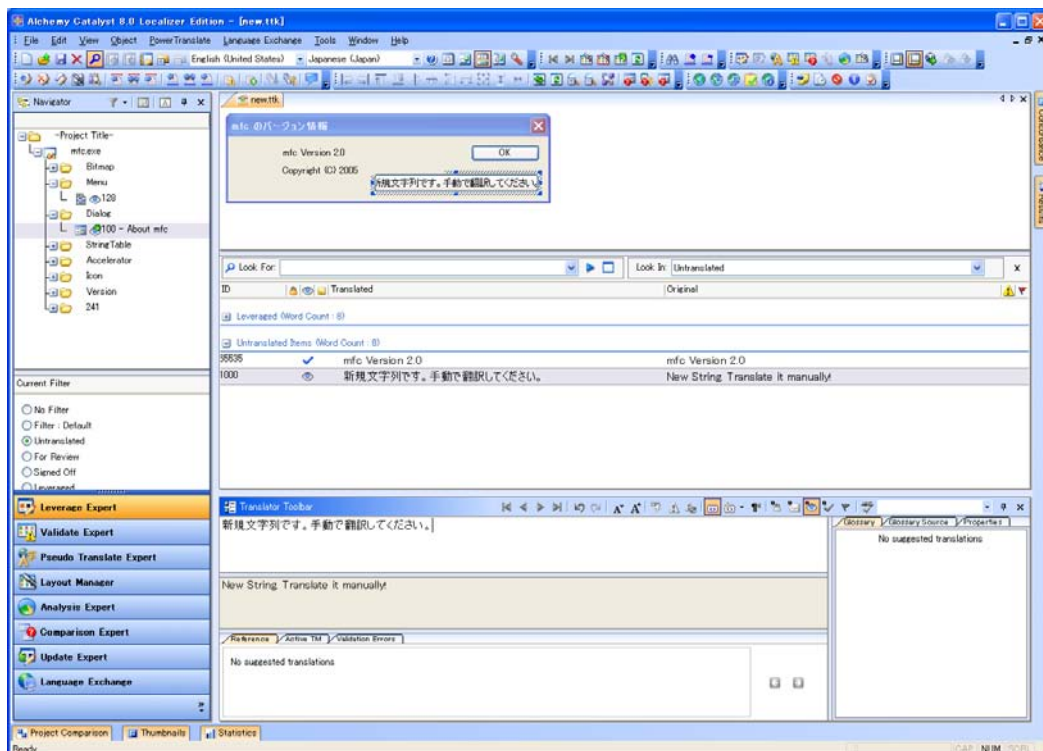
4. [-Project Title-]などをクリックした後で、再度 [Menu] - [128] をクリックします。
[Untranslated Items] がないことを確認し、Dialog のローカライズに移ります。
5. [Dialog] - [100 - mfc のバージョン情報] をクリックします。[Untranslated Items] として表示されている個所をローカライズします。



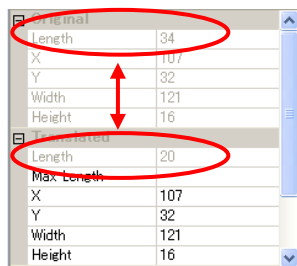
6. 「mfc Version 2.0」は翻訳せずにステータスを [Signed Off] に変更します。「mfc Version 2.0」をクリックし、[Signed Off] ボタン  をクリックします。「mfc Version 2.0」に [Signed Off] アイコン  が表示されます。



7. 引き続き、「New String. Translate it manually!」を「新規文字列です。手動で翻訳してください。」にローカライズします。




8. この時点で [workspace] 上部の [Visual View] 部分で、ボタンから文字列がはみ出していることが分かります。[Translator Toolbar] 右側の [Properties] タブを選択し、文字列の長さを表示する個所も参照してください。




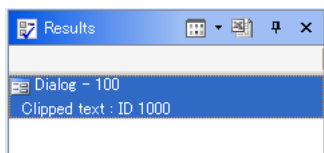
ノート：日本語、中国語、韓国語などのダブルバイトの言語にローカライズする場合は、1 文字が 1 Length として計算されるため、[Translated] の [Length] を倍にして [Original] の [Length] と比較してください。このケースでは 20x2 と 34 のため、6 バイト分増えてしまっていることが分かります。

9. 別の項目をクリックし、再度 [Dialog] - [100 - mfc のバージョン情報] をクリックします。[Untranslated Items] が表示されていないことを確認します。

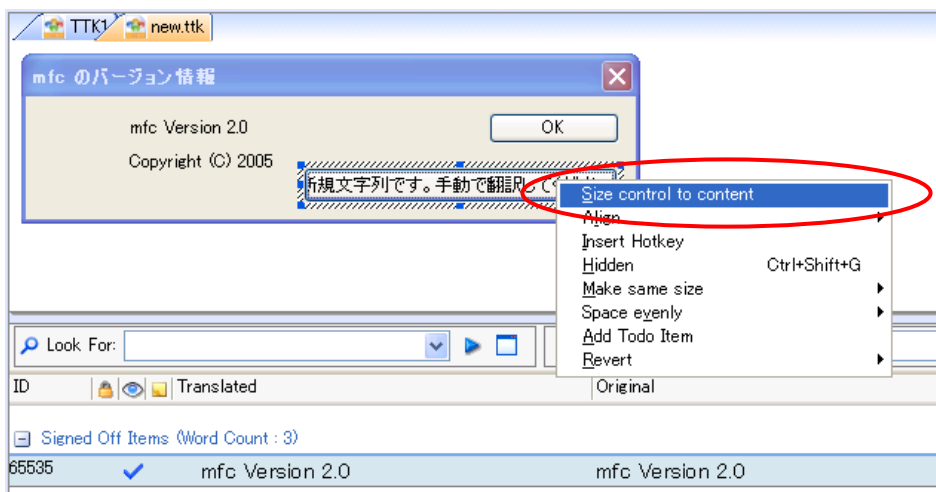
簡易 QA 作業

1. この段階で QA 作業を行うことができます。Dialog [100 - About mfc] を選択し、画面上部の QA アイコン  をクリックします。

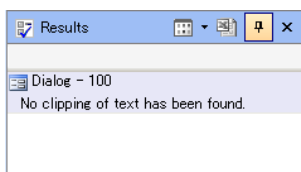
2. 最初に [Test for clipped text] ボタン  をクリックします。欠けているテキストが検出されました。項目をダブルクリックして、該当項目にジャンプします。




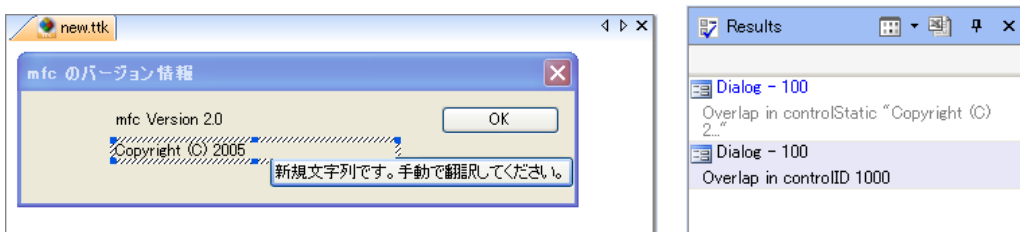
3. 先ほどローカライズした文字列が長く、すべて表示されていません。すべて表示されるようにボタンの大きさを修正します。ボタンを右クリックして、[Size control to content] をクリックします。ボタンの大きさが文字列に併せて広がります。



4. 再度 [Test for clipped text] ボタンをクリックして問題が解決したことを確認します。

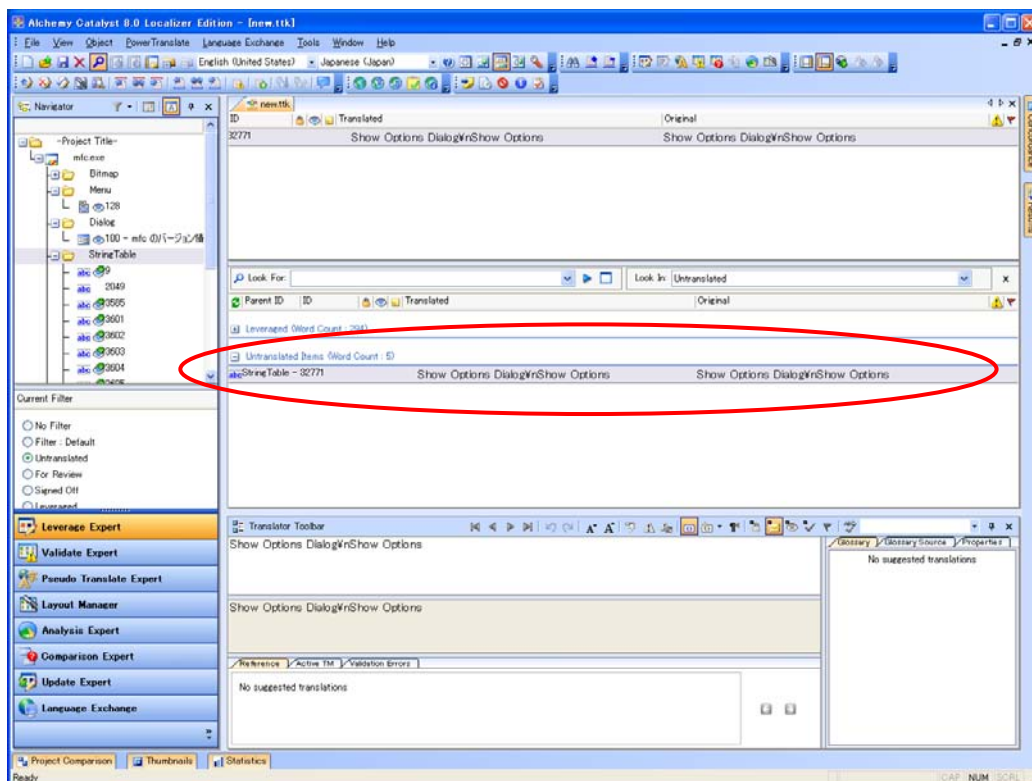


5. 次に [Test for overlapping controls] ボタン  をクリックします。[Copyright (C) 2005] のテキストとボタンが重なっているエラーが検出されました。このエラーは文字列が表示されているため、無視します。



手動ローカライズ (続き)

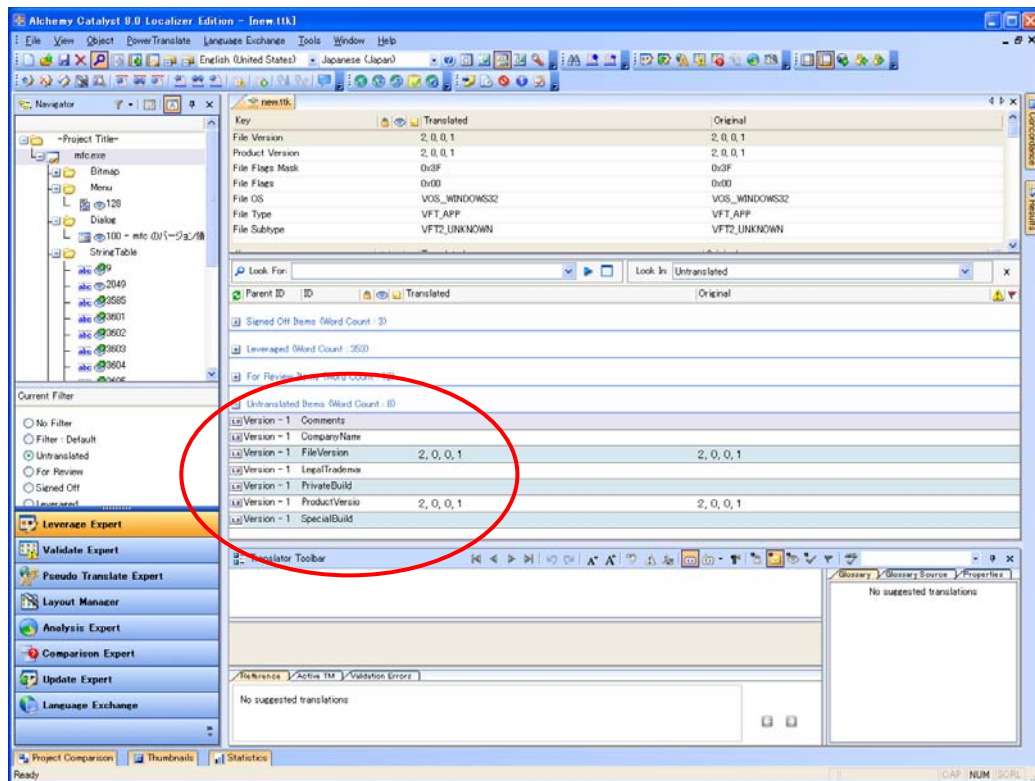
9. 引き続き、[StringTable] の手動ローカライズを行います。メニュー [Tools] と [Option] で追加された文字列が未翻訳で残っています。



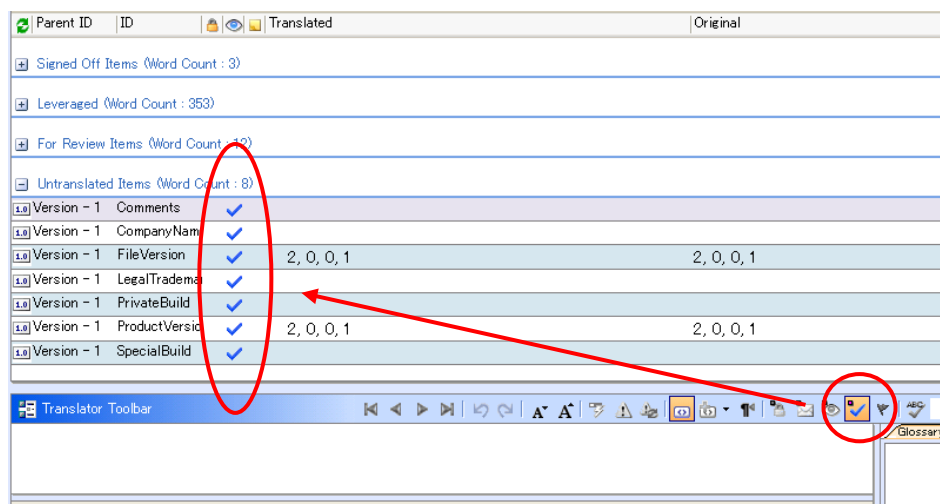
10. [StringTable - 2049] の文字列を「オプション ダイアログを表示する\n オプションを表示」とローカライズします。

ローカライズ作業

11. 以上でローカライズが終了です。未翻訳の個所を確認するため、mfc.exe をクリックします。[Version - 1] の項目が未翻訳です。



12. Version の部分は翻訳の必要がありませんので、ID [Comments] から [SpecialBuild] までを選択し、[Signed off] アイコン をクリックし、終了ステータスに変更します。

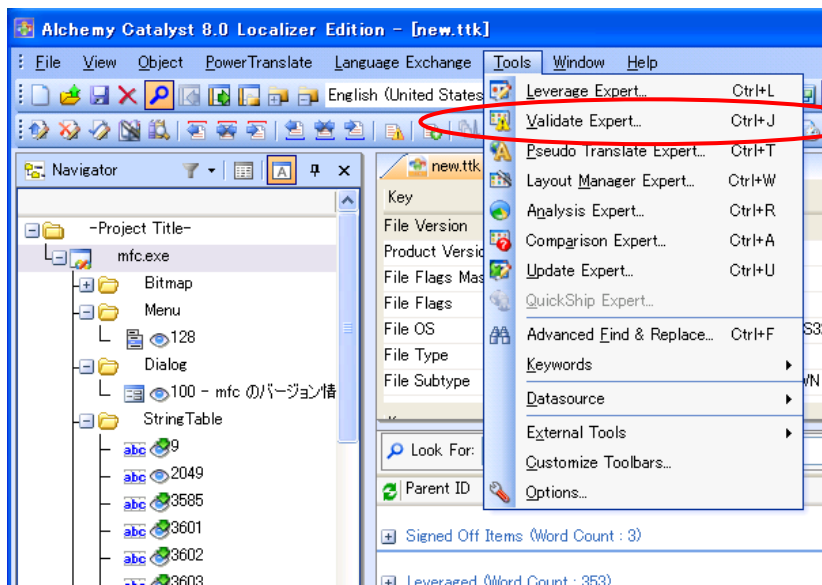


13. 以上で未翻訳のセグメントがなくなり、ローカライズが終了しました。メニューから [File] - [Save] をクリックして、プロジェクトを保存します。

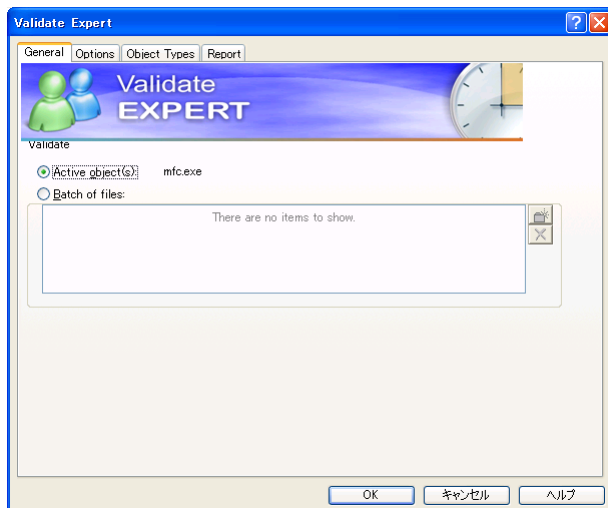
バリデート エキスパート

バリデート エキスパートは、ローカライズの確認やローカライズ作業において発生する一般的なエラーを検出するために使用します。たとえば、メニューで重複しているホットキーや、ダイアログ パネルで一部表示されていないローカライズ文字列などを検出します。検出できるエラーについては、オンライン ヘルプの「リファレンス - バリデート エキスパート テスト」を参照してください。

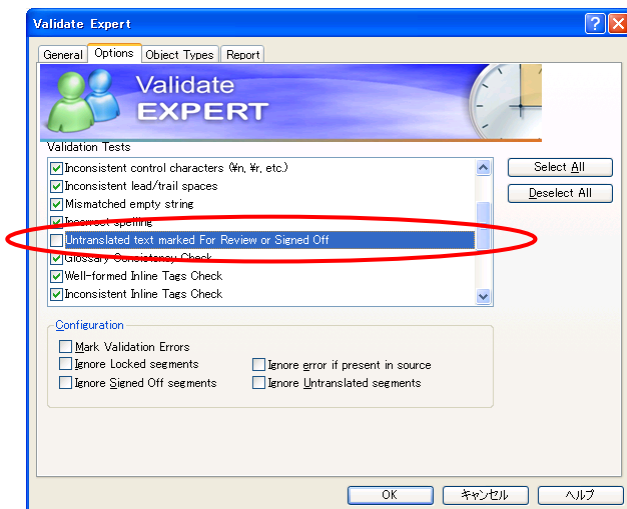
1. mfc.exe を選択し、メニューから [Tools] - [Validate Expert] をクリックします。



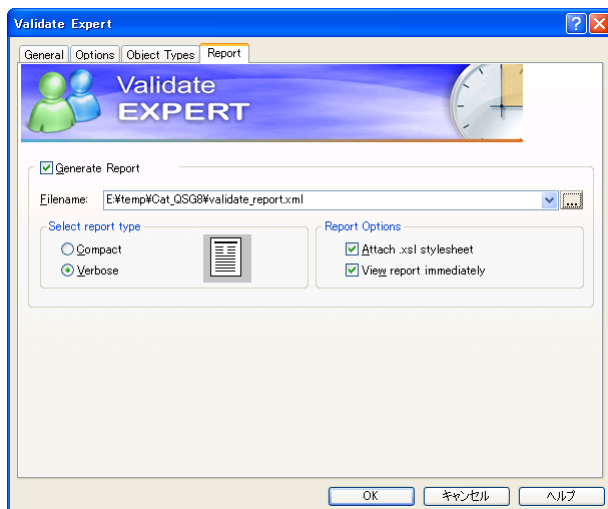
2. 次のダイアログが表示されます。[Active object] に mfc.exe が指定されている事を確認します。



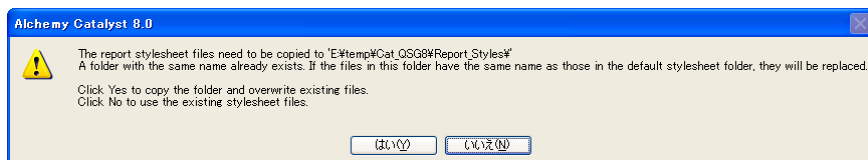
- 「ローカライズ作業」の章で、ローカライズしないで Signed off ステータスにした個所が複数あるため、[Options] タブの [Untranslated text marked ForReview or Signed Off] のチェックを外します。



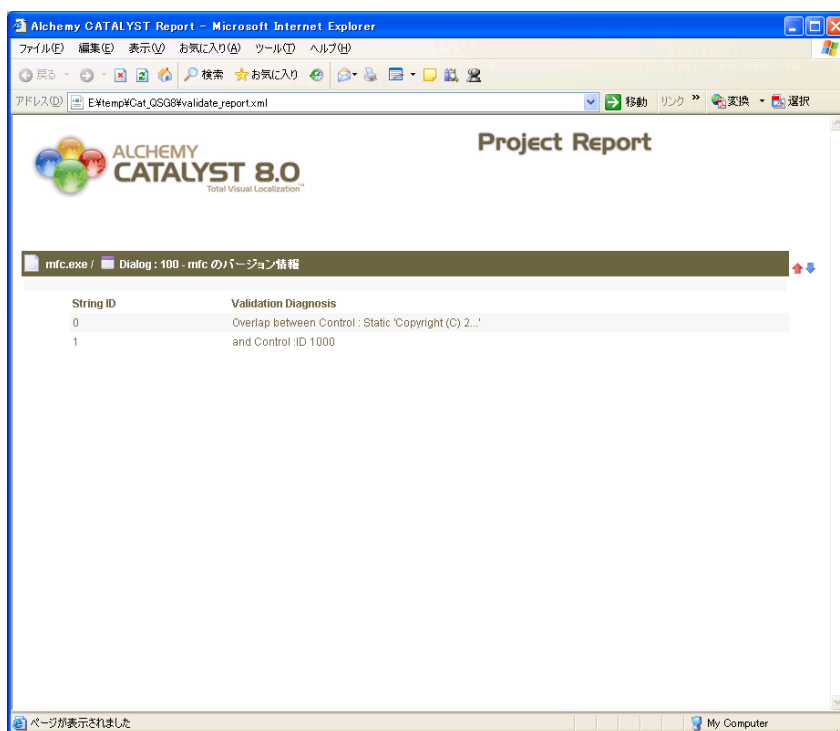
- [Report] タブをクリックし、[Generate Report] にチェックを入れ、レポートのファイル名を指定します。[OK] をクリックしてバリデート エキスパートを開始します。



ノート：次のダイアログが表示される場合があります。このダイアログは、XML ファイル用のスタイルシートを上書きコピーするかどうかの確認メッセージです。[はい] を選択して、スタイルシートを上書きコピーします。



5. XML レポートが表示されます。先ほど無視した文字列の重なりのみが検出されました。



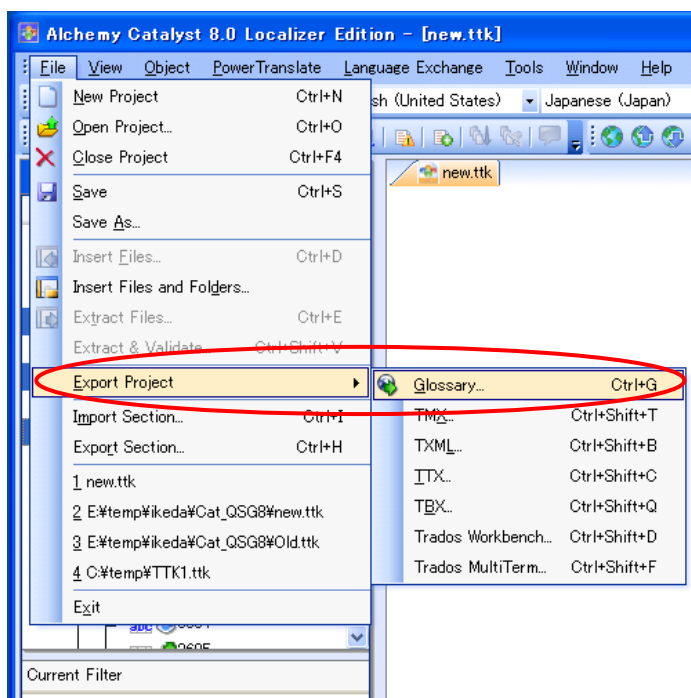
6. 他のエラーが検出された場合は、再度にバリデート エキスパートを行い、上記のエラー以外が検出されないことを確認し、TTK を保存します。

用語集の抽出

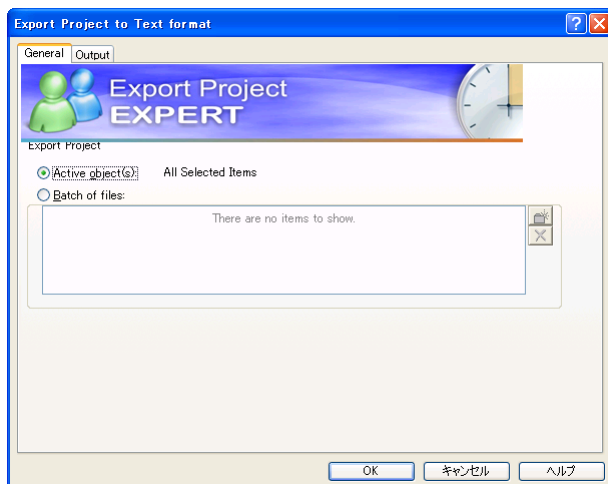
用語集の抽出を使用して、プロジェクト TTK ファイルからローカライズを TRADOS MultiTerm、TRADOS Translators Workbench、TMX 形式、XML 形式、およびテキスト ファイルにエクスポートすることができます。フィルタを使用すると、エクスポートする用語の詳細な選択方法を調整できます。

ここでは、テキスト ファイルにメニューおよびダイアログの用語を抽出します。

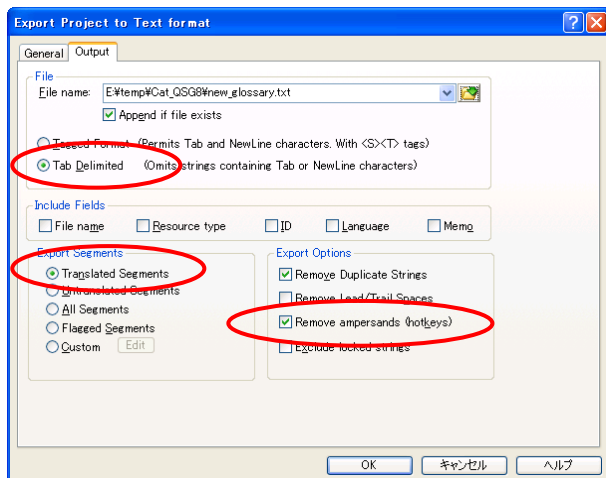
1. 本ドキュメントでは Menu、Dialog、StringTable から用語を抽出するため、Ctrl キーを押しながら [Menu]、[Dialog]、[StringTable] を選択して、メニューから [File] - [Export Project] - [Glossary] を選択します。



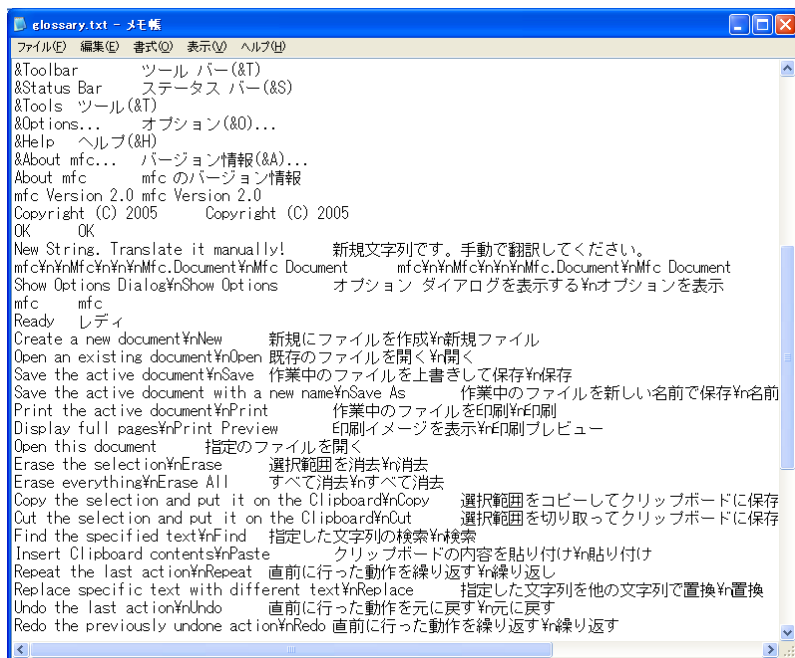
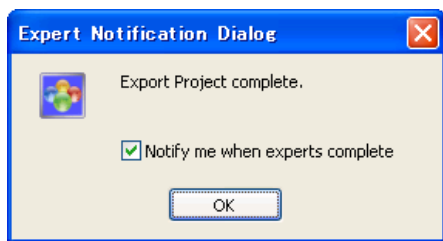
2. 次のダイアログが表示されます。[Active object(s)] が [All Selected Item] になっていることを確認します。



- 用語集を保存するファイルを指定して、[Tab Delimited]、[From translated strings] のオプションを選択し、[OK] をクリックします。アンパサンド（ファイル(&F) の (&F) の部分）を含めたくない場合は、[Remove ampersands (hotkeys)] にチェックを付けます。



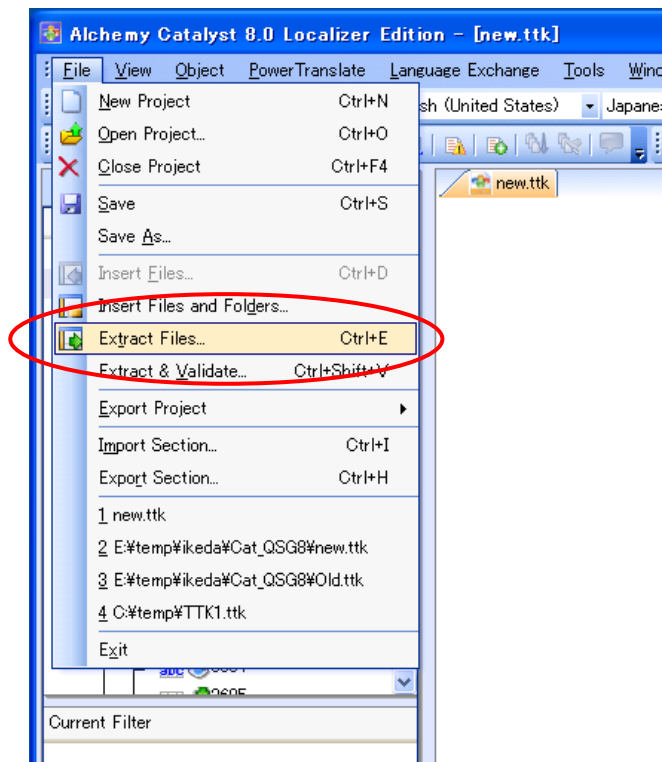
- 用語集の抽出が終了しました。



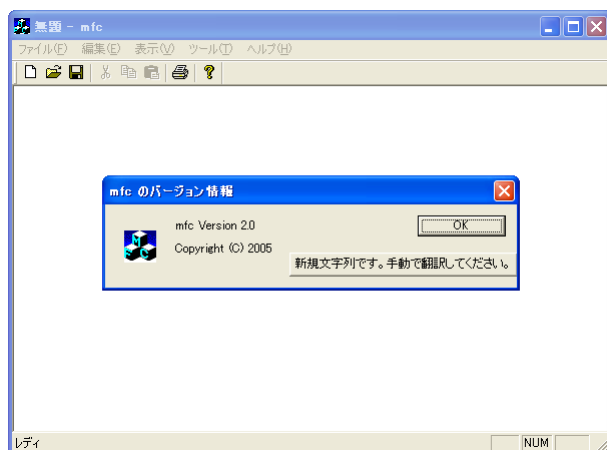
ファイルの抽出

ローカライズが終了したらファイルを抽出します。Alchemy CATALYST はローカライズされたリソース部分を付加して exe を抽出するため、再コンパイルの必要はありません。

1. mfc.exe を選択し、メニューから [File] - [Extract Files] をクリックします。



2. [ファイルの抽出] ダイアログでファイル名を `jpn_mfc_200.exe` と指定し、抽出します。
3. 生成されたアプリケーションが正しくローカライズされていることを確認してください。



お疲れ様でした

本ドキュメントでは Alchemy CATALYST のバージョンアップ ワークフローをご紹介します。

本資料でご紹介できなかった、作成した用語集の効果的な使用方法、TRADOS WorkBench との連携、Java の properties ファイル、Linux の man ファイルなどのテキストベースファイルのローカライズ方法など、他のワークフローを知りたい場合は、エクセルソフト株式会社 営業部 (xlsoftkk@xlsoft.com / 03-5440-7875) までお気軽にお問合せください。